

いのちとくらしをまもる  
防 災 減 災

令和3年7月7日  
地 震 火 山 部

## 南海トラフ地震関連解説情報について

### —最近の南海トラフ周辺の地殻活動—

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時<sup>(注)</sup>と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震（M 8～M 9クラス）は、「平常時」においても今後 30 年以内に発生する確率が 70～80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に 70 年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

#### 1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

(1) 四国西部：6月4日から6日

#### 2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関する現象)

上記(1)の深部低周波地震（微動）とほぼ同期して、周辺に設置されているひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。

G N S S 観測によると、2019 年春頃から四国中部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。また、2020 年夏頃から紀伊半島西部・四国東部及び九州南部で観測されている、それまでの傾向とは異なる地殻変動は、いずれも最近は鈍化しているように見えます。

(長期的な地殻変動)

G N S S 観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

#### 3. 地殻活動の評価

(ゆっくりすべりに関する現象)

上記(1)の深部低周波地震（微動）と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2019 年春頃からの四国中部の地殻変動、2020 年夏頃からの紀伊半島西部・四国東部及び九州南部での地殻変動は、それぞれ四国中部周辺、紀伊水道周辺及び日向灘南部のプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。このうち、紀伊水道周辺及び日向灘南部の長期的ゆっくりすべりは、最近は鈍化しています。

これらの深部低周波地震（微動）、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

(長期的な地殻変動)

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

以上を内容とする「南海トラフ地震関連解説情報」を本日 17 時 00 分に発表しました。

添付の説明資料は、気象庁、国土地理院、及び防災科学技術研究所の資料から作成。

気象庁の資料には、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所、東京大学、名古屋大学等のデータも使用。

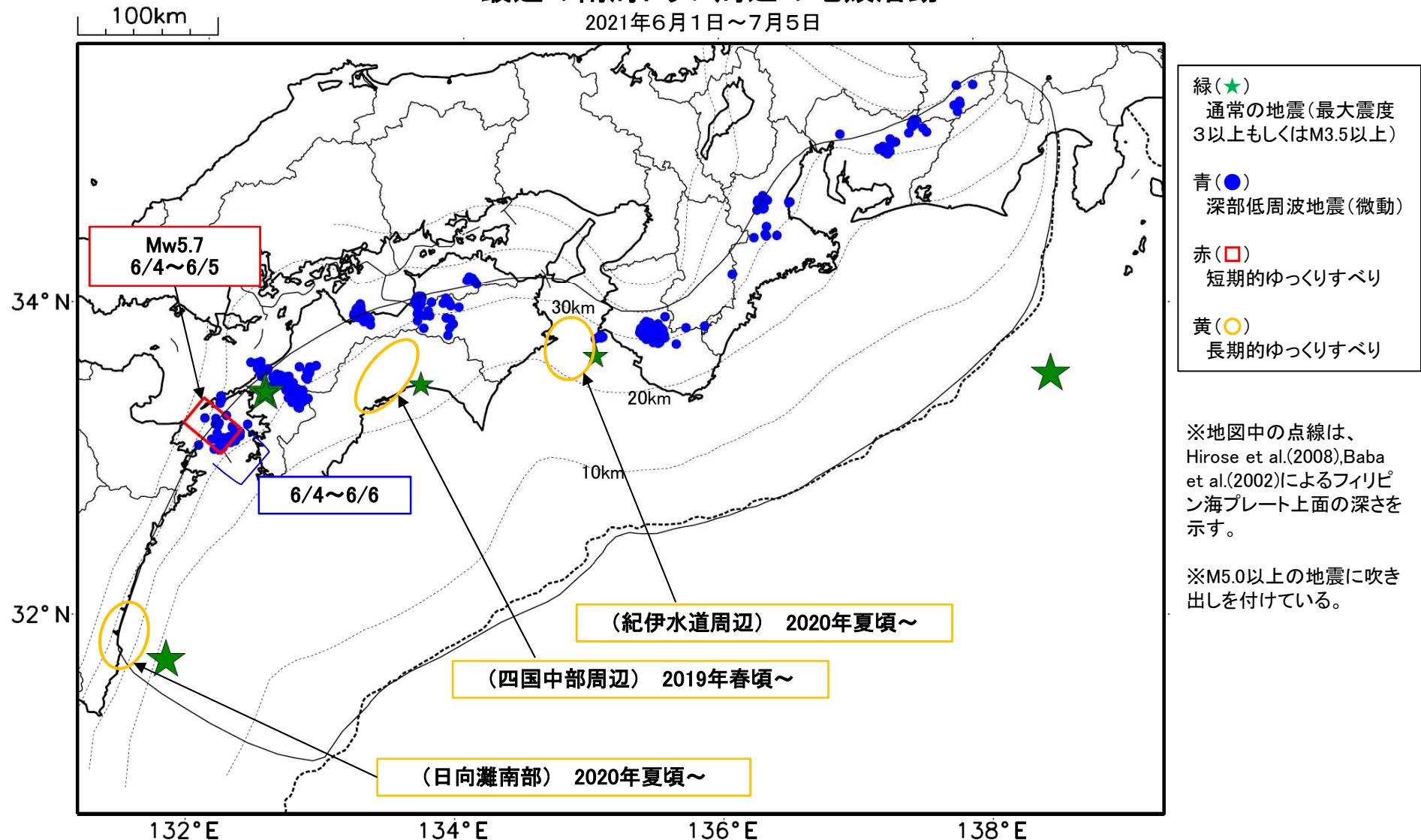
---

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。本資料は本日開催した評価検討会、判定会で評価した、主に前回（令和3年6月7日）以降の調査結果を取りまとめたものです。なお、日時のデータなど、精査後修正することがあります。

問合せ先：地震火山部 地震火山技術・調査課 大規模地震調査室 担当 重野 電話 03-6758-3900（内線 5244）
--

# 最近の南海トラフ周辺の地殻活動

2021年6月1日～7月5日



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)…………気象庁の解析結果による。

深部低周波地震(微動)…………(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁の解析結果による。

短期的ゆっくりすべり…………【四国西部】気象庁の解析結果による。

長期的ゆっくりすべり…………【四国中部周辺、紀伊水道周辺、日向灘南部】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

## 令和3年6月1日～令和3年7月5日の主な地震活動

### ○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

#### 【最大震度3以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震及びその他の主な地震】

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発生場所
6/10	22:15	紀伊水道	39	3.5	1	フィリピン海プレート内部
6/15	15:18	東海道南方沖	－	4.3	－	フィリピン海プレートの地殻内
6/19	07:39	愛媛県南予	42	4.7	4	フィリピン海プレート内部
6/24	01:16	愛媛県南予	42	3.5	1	フィリピン海プレート内部
6/26	22:49	土佐湾	32	3.6	1	フィリピン海プレート内部
6/29	14:55	日向灘	41	4.7	3	

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。

※太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く。

### ○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
■四国東部 5月30日～6月2日 6月7日～9日 6月12日～13日 6月16日 6月22日～29日 7月4日	■紀伊半島北部 6月12日 6月18日～19日 6月29日 7月4日～5日	5月29日～6月3日 6月6日～7日 6月10日～11日 6月13日 6月19日～20日 6月22日
■四国中部 6月10日～11日 6月28日 7月3日～（継続中）	■紀伊半島中部 6月28日	
■四国西部 6月1日～2日 <b>6月4日～6日</b> ・・・(1) 6月7日 6月12日～15日 6月18日～20日 6月24日 6月26日～29日 7月3日	■紀伊半島西部 6月1日～3日 6月10日～12日 6月21日～22日 6月24日～25日	

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数2日以上

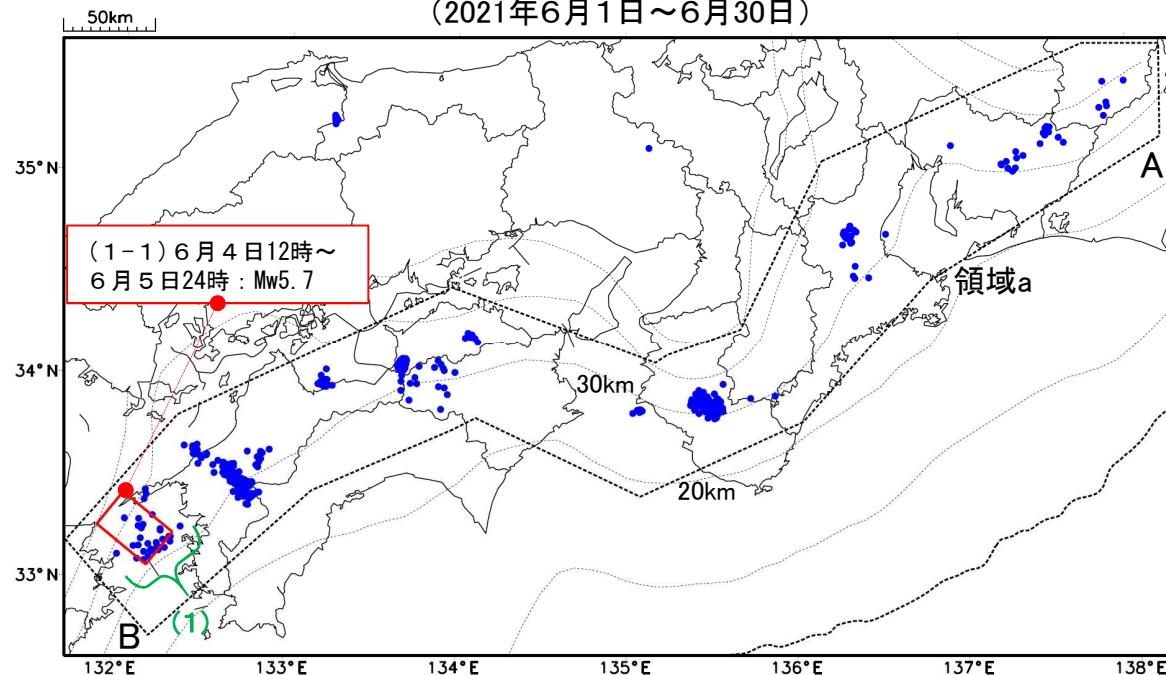
または活動日数1日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。

※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を**赤字**で示す。

※上の表中（1）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたもの。

# 深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべりの全体概要

深部低周波地震(微動)の震央分布図と短期的ゆっくりすべりの断層モデル  
(2021年6月1日～6月30日)

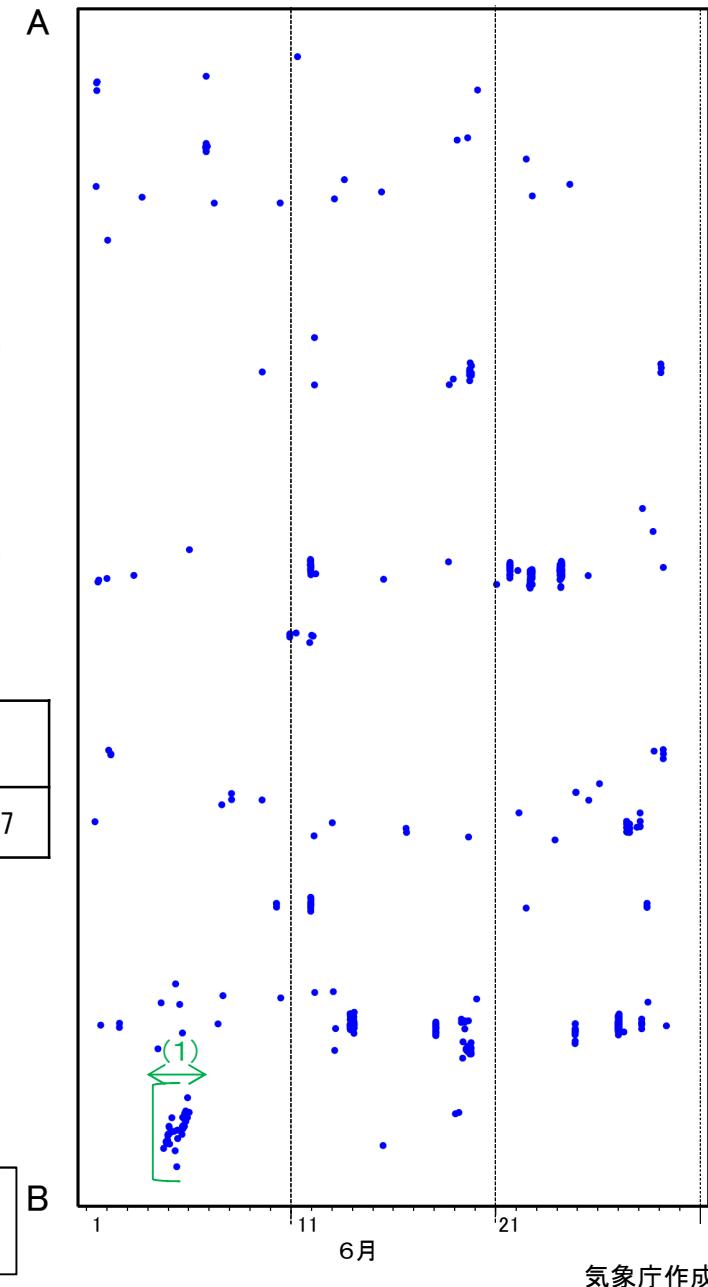


主な深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

活動場所	深部低周波地震(微動) 活動の期間	短期的ゆっくりすべりの期間と規模
(1) 四国西部	6月4日～6月6日	(1-1) 6月4日12時～6月5日24時 : Mw5.7

●: 深部低周波地震(微動) 震央(気象庁の解析結果を示す) 期間(気象庁の解析結果を示す)  
□: 短期的ゆっくりすべりの断層モデル(四国西部: 気象庁の解析結果を示す)  
点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さ(10kmごとの等深線)を示す。

領域a(点線矩形)内の深部低周波地震(微動)  
の時空間分布図(A-B投影)

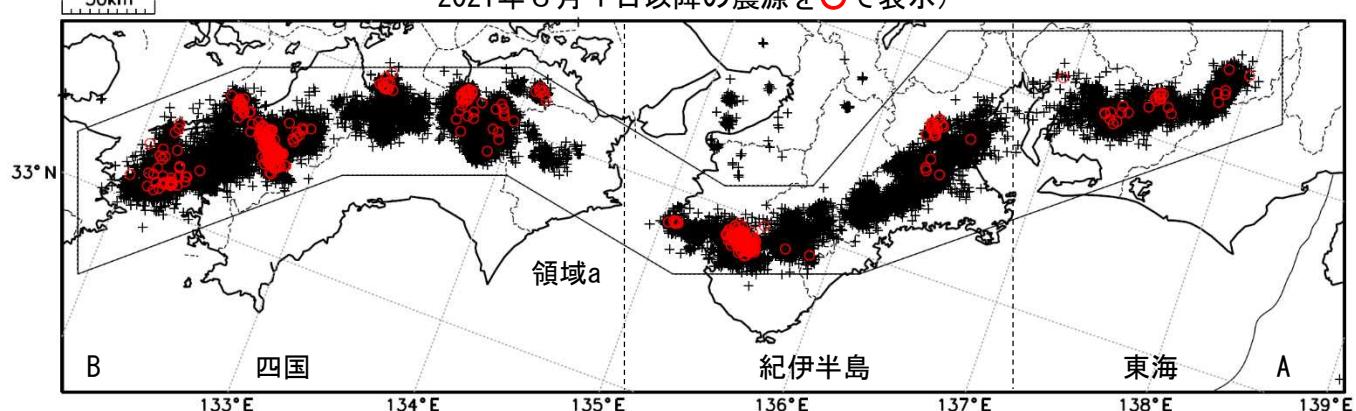


# 深部低周波地震（微動）活動（2011年7月1日～2021年6月30日）

深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

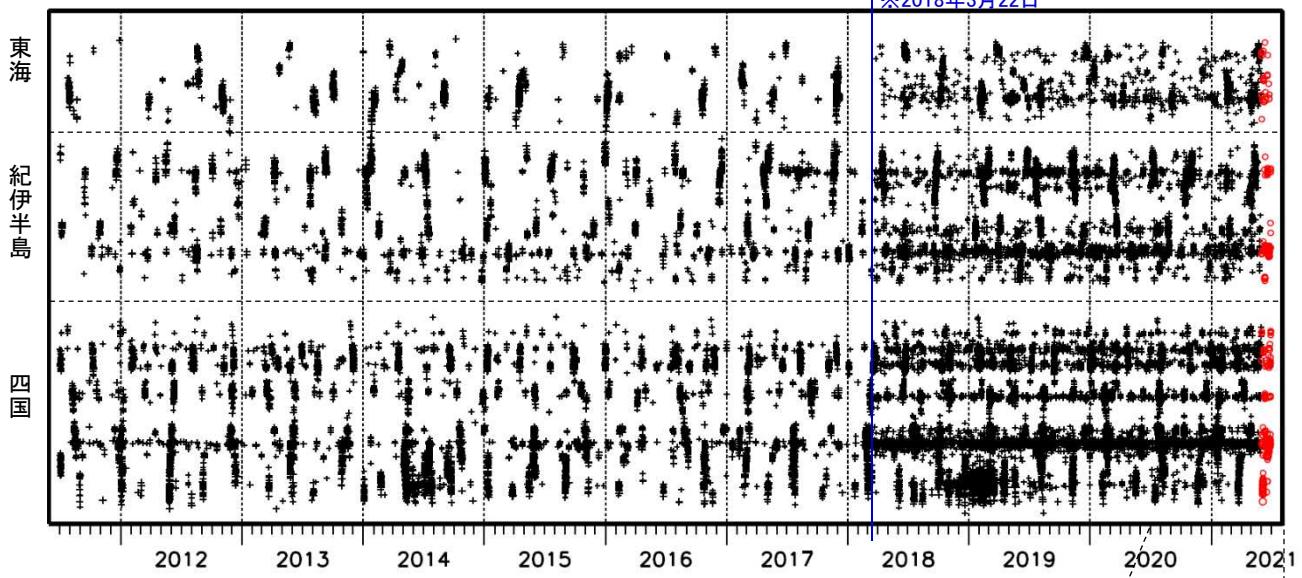
震央分布図（2011年7月1日～2021年6月30日：過去10年間）

2021年6月1日以降の震源を○で表示

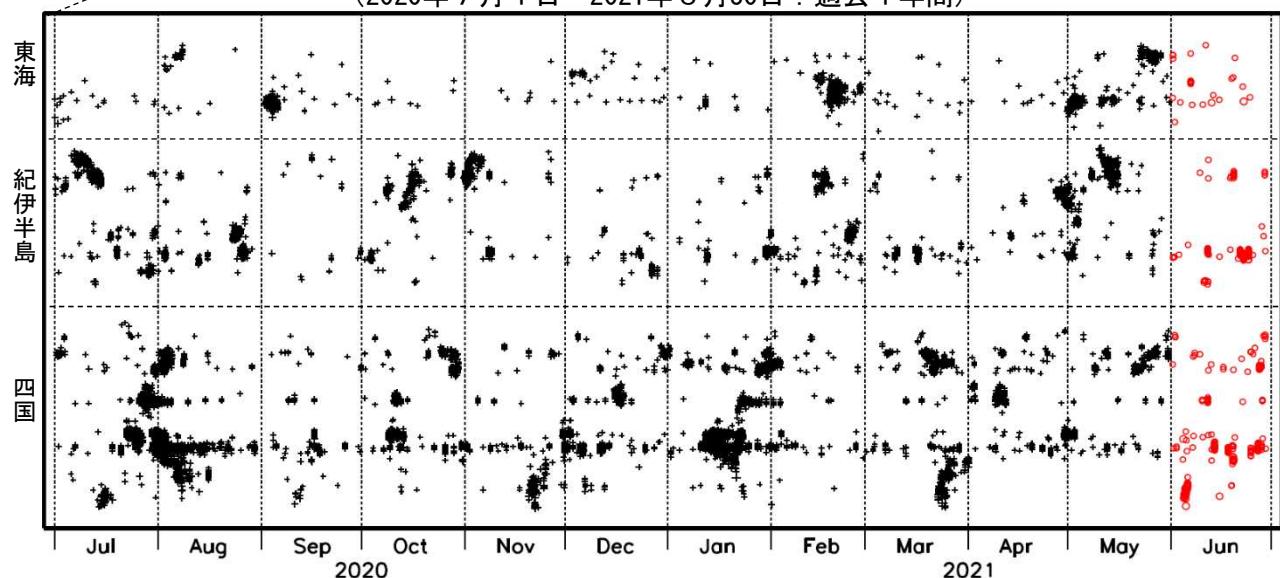


上図領域a内の時空間分布図（A-B投影）

※2018年3月22日



(2020年7月1日～2021年6月30日：過去1年間)



※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更(Matched Filter法の導入)により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

# 紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況 (2021年6月)



防災科研

MOWLAS  
Monitoring of  
Waves on Land and Sea

- 顕著な活動は、とくにみられなかった。

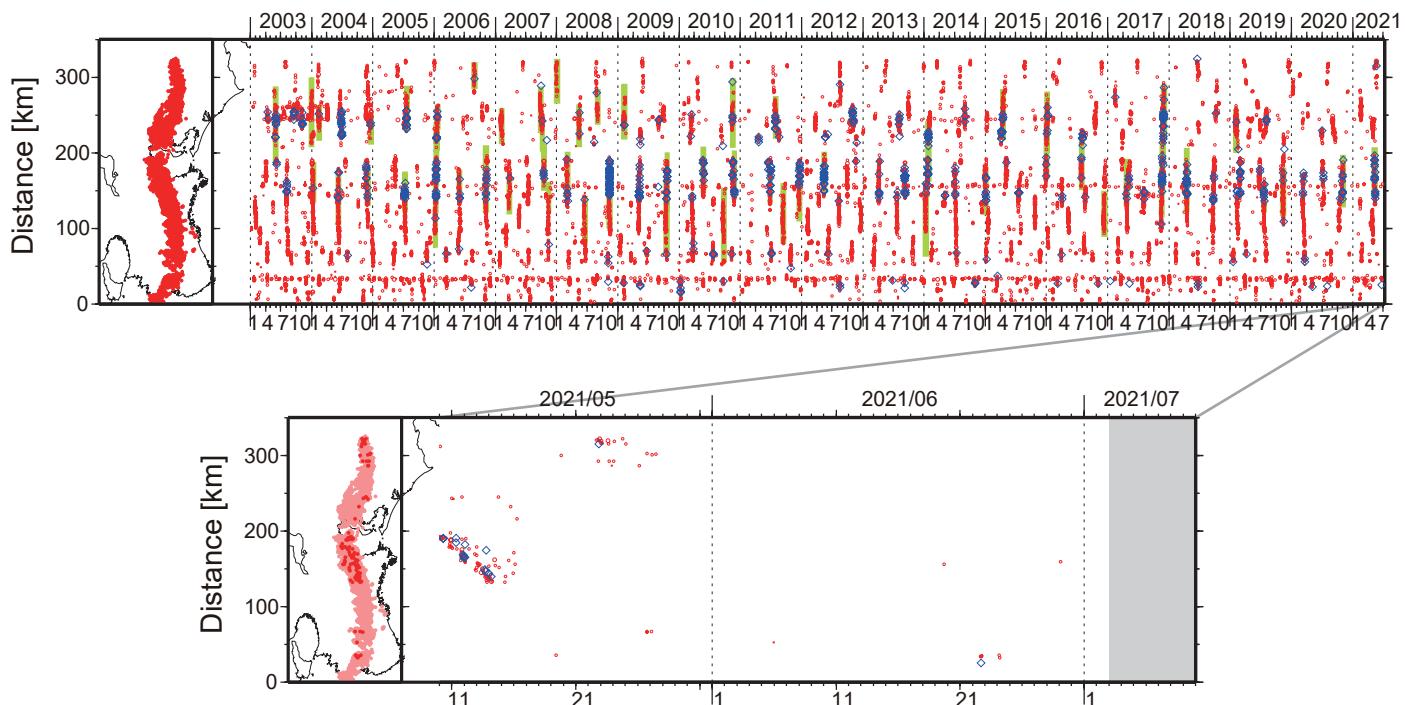


図1. 紀伊半島・東海地域における2003年1月～2021年7月2日までの深部低周波微動の時空間分布(上図). 赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である. 青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である. 黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す. 下図は2021年6月を中心とした期間の拡大図である. 6月以降について顕著な活動はとくにみられなかったものの、6月22日頃に和歌山県中部において、ごく小規模な活動がみられた.

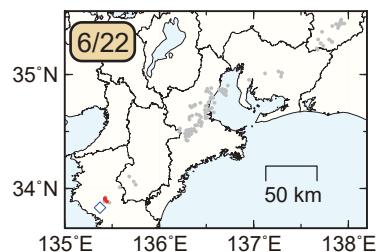
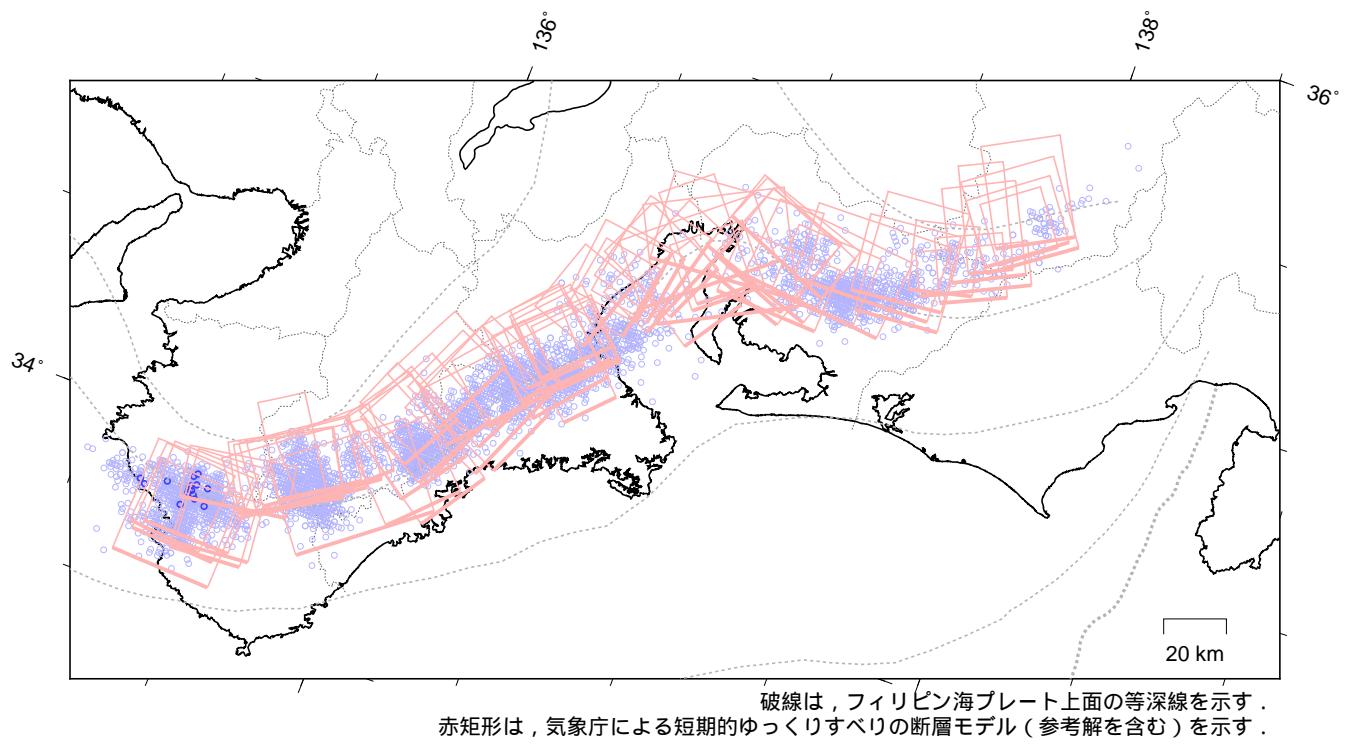


図2. 各期間に発生した微動(赤丸)および超低周波地震(青菱形)の分布.  
灰丸は、図1の拡大図で示した期間における微動分布を示す.

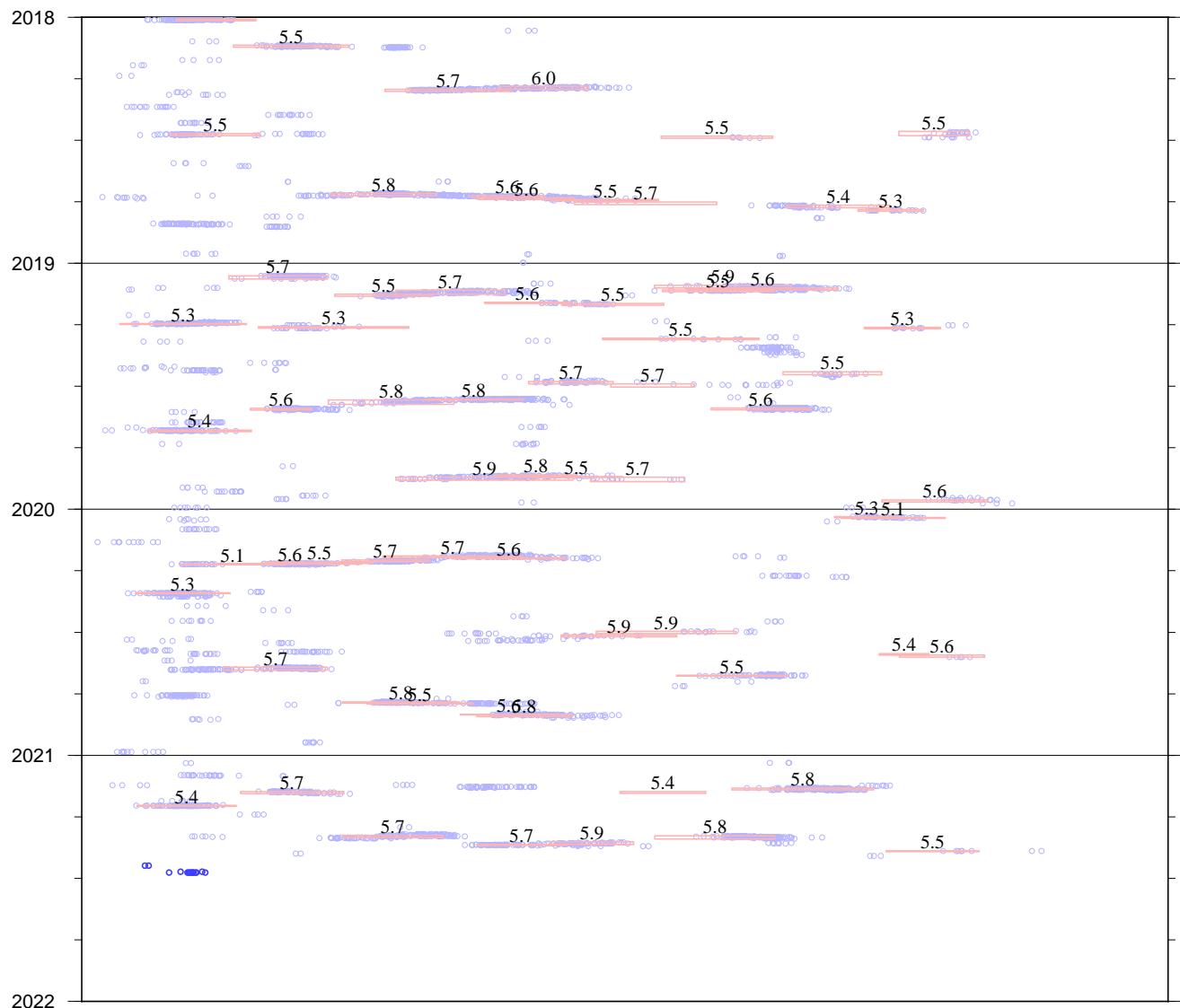
# 東海～紀伊半島 短期的ゆっくりすべりの活動状況

2018年1月1日～2021年6月30日

(2021年6月1日以降を濃く表示)



上図の時空間分布図



短期的ゆっくりすべりの解析には、気象庁、産業技術総合研究所及び静岡県のデータを用いている。  
赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMWを示す。

青丸はエンベロープ相關法（防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた  
低周波微動の震央を示す。

気象庁作成

# 四国の深部低周波微動活動状況（2021年6月）

- 5月20日～6月2日頃に四国東部において、やや活発な微動活動。

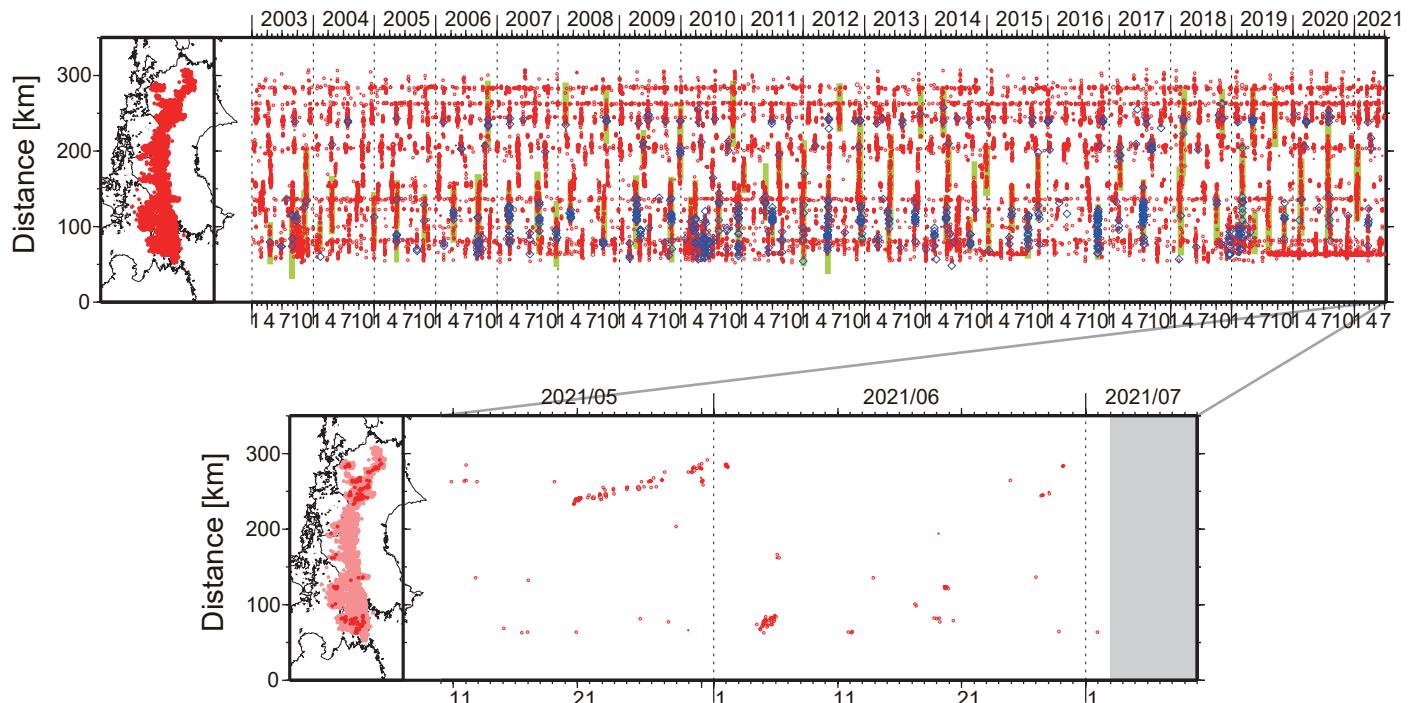


図1. 四国における2003年1月～2021年7月2日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色太線は、これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す。下図は2021年6月を中心とした期間の拡大図である。5月20日～6月2日頃に愛媛県東部から徳島県中部において、やや活発な活動がみられた。この活動は愛媛県東部での開始後、5月31日頃まで東方向への活動域の移動がみられ、6月1日頃からは香川県付近において活動がみられた。6月4～6日頃には豊後水道において、6月18～20日頃には豊後水道から愛媛県西部において、それぞれ小規模な活動がみられた。6月27～28日頃には愛媛・香川・徳島県境付近において、ごく小規模な活動がみられた。

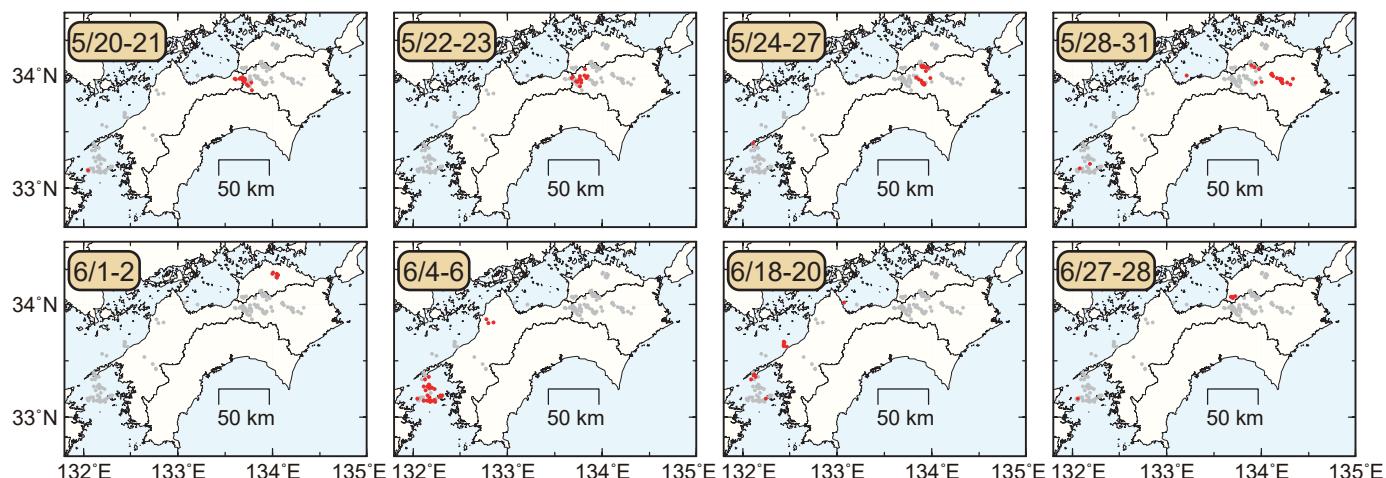


図2. 各期間に発生した微動分布（赤丸）。灰丸は図1の拡大図で示した期間の微動分布。

# 四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

6月4日から6日にかけて、四国西部で深部低周波地震（微動）を観測した。  
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されているひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

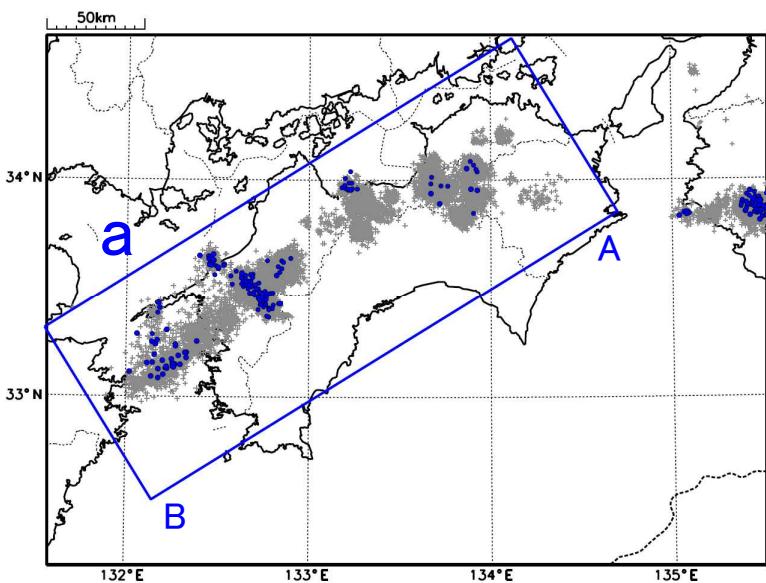
## 深部低周波地震(微動)活動

震央分布図(2018年4月1日～2021年6月24日、

深さ0～60km、Mすべて)

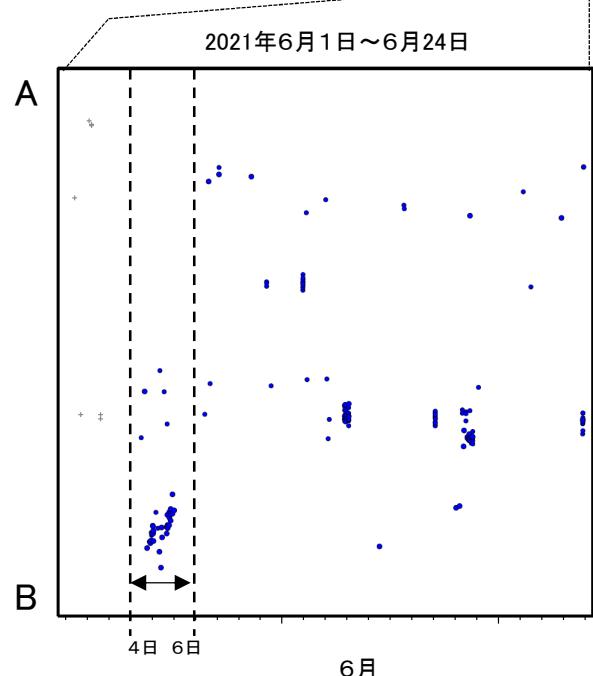
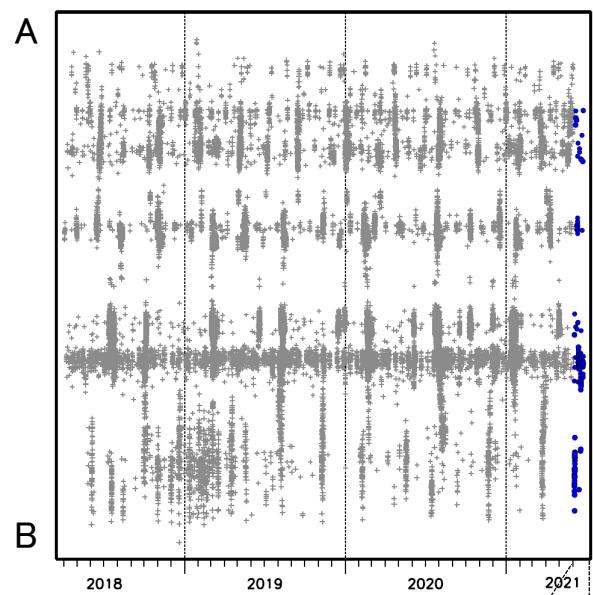
灰:2018年4月1日～2021年6月3日、

青:6月4日～6月24日



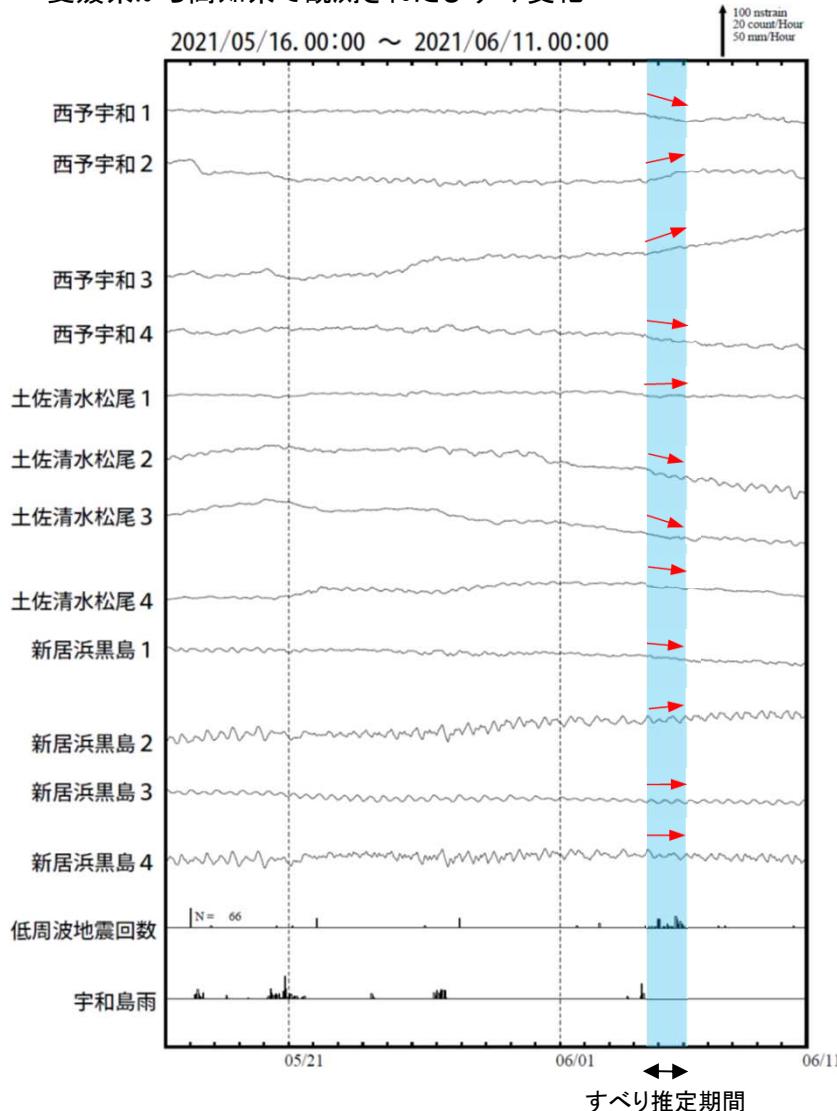
震央分布図の領域a内の時空間分布図

(A-B投影)

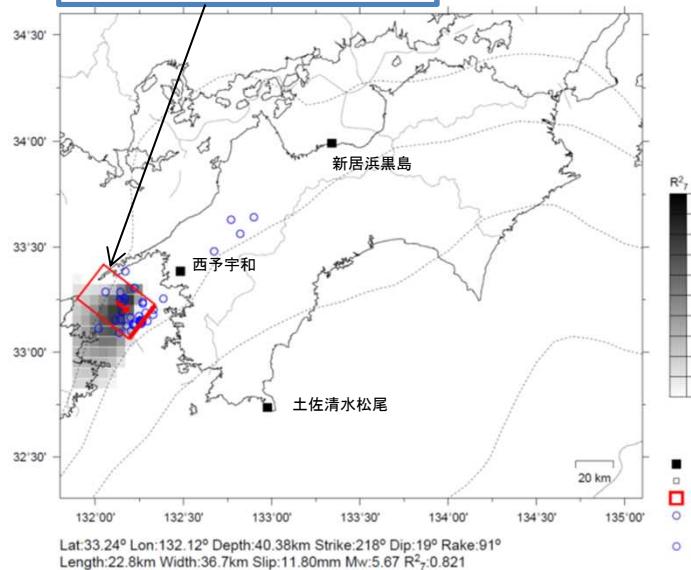


## 四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(6月4日～5日)

愛媛県から高知県で観測されたひずみ変化



6月4日12時～5日24時  
Mw5.7



参考

第1段階のグリッドサーチによる決定係数の分布  
(1に近いほど観測値を良く説明する)

左図に観測されたひずみ観測点の矢印をつけた成分での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

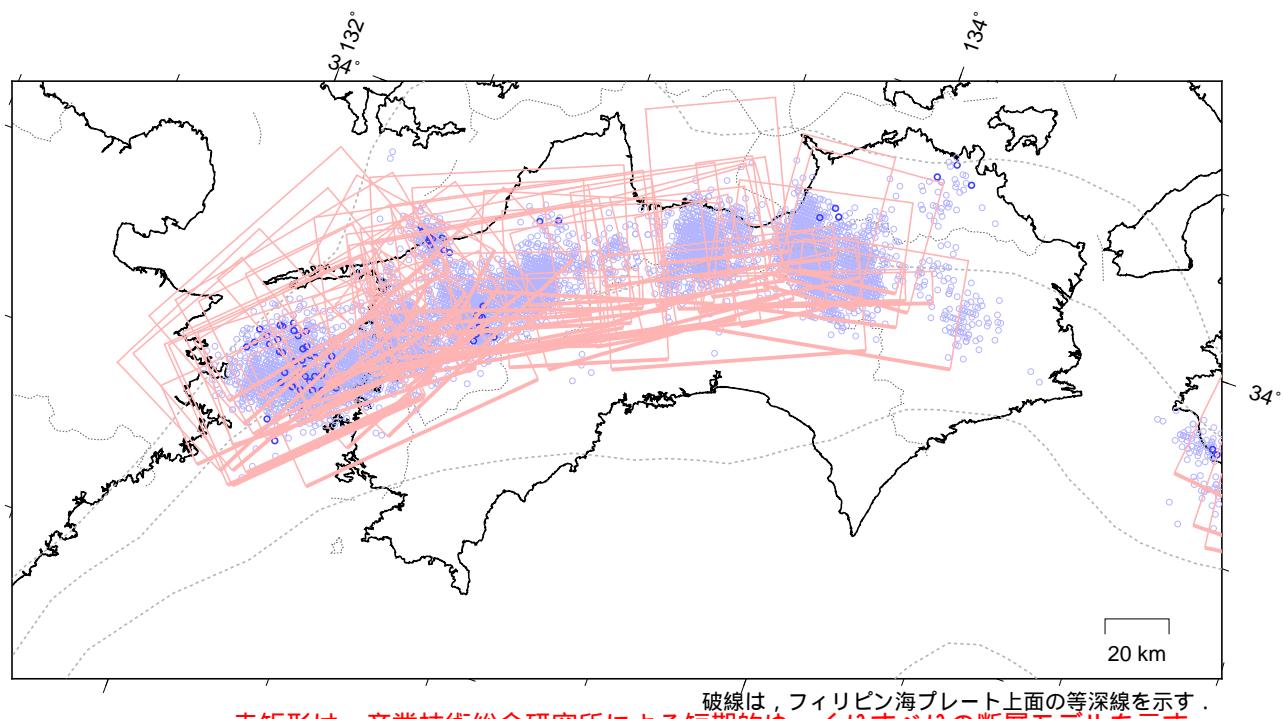
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。  
 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

西予宇和、新居浜黒島及び土佐清水松尾は産業技術総合研究所のひずみ計である。

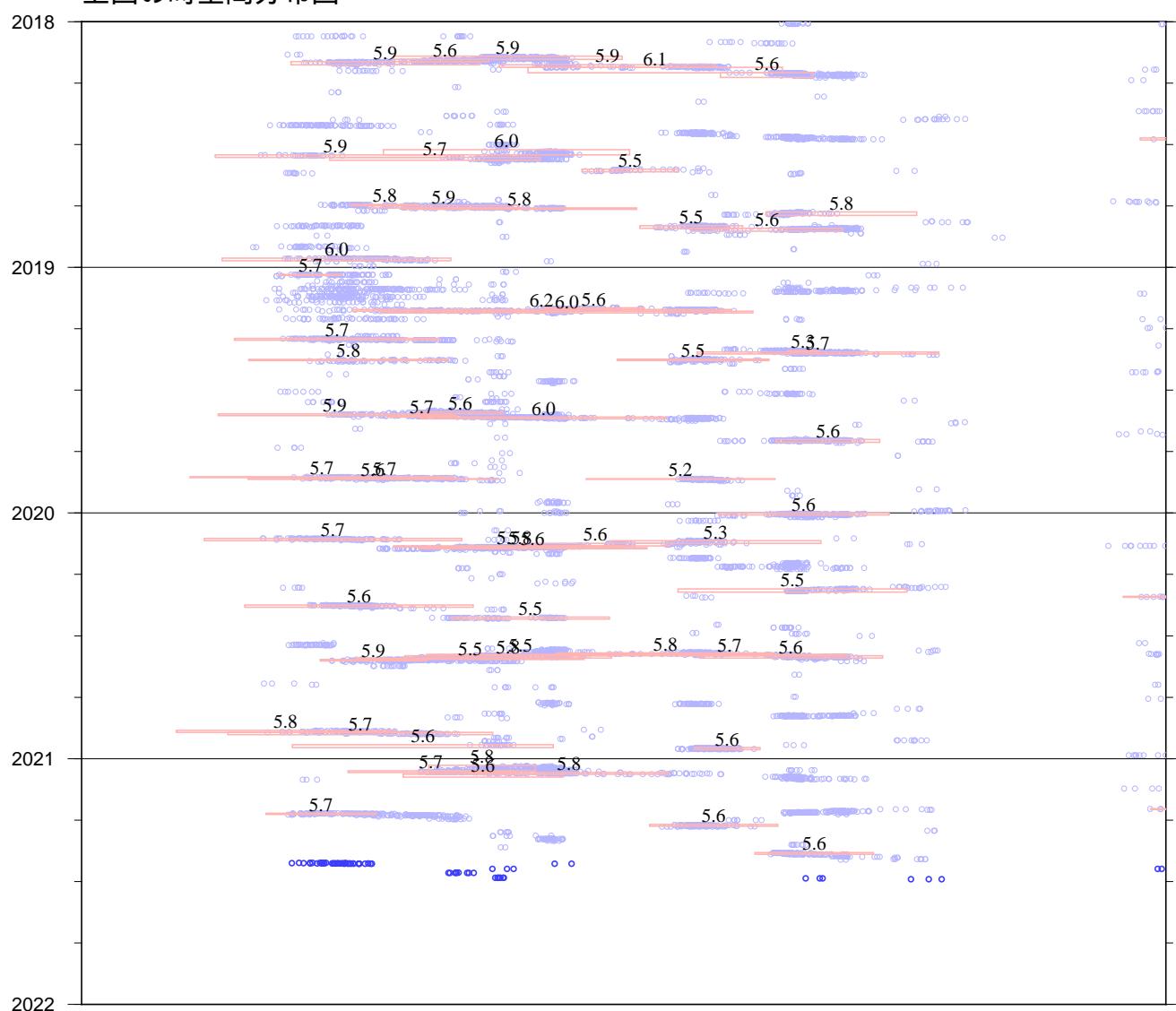
# 四国 短期的ゆっくりすべりの活動状況

2018年1月1日～2021年6月30日

(2021年6月1日以降を濃く表示)



上図の時空間分布図



短期的ゆっくりすべりの解析には、産業技術総合研究所及び防災科学技術研究所のデータを用いている。  
赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMWを示す。

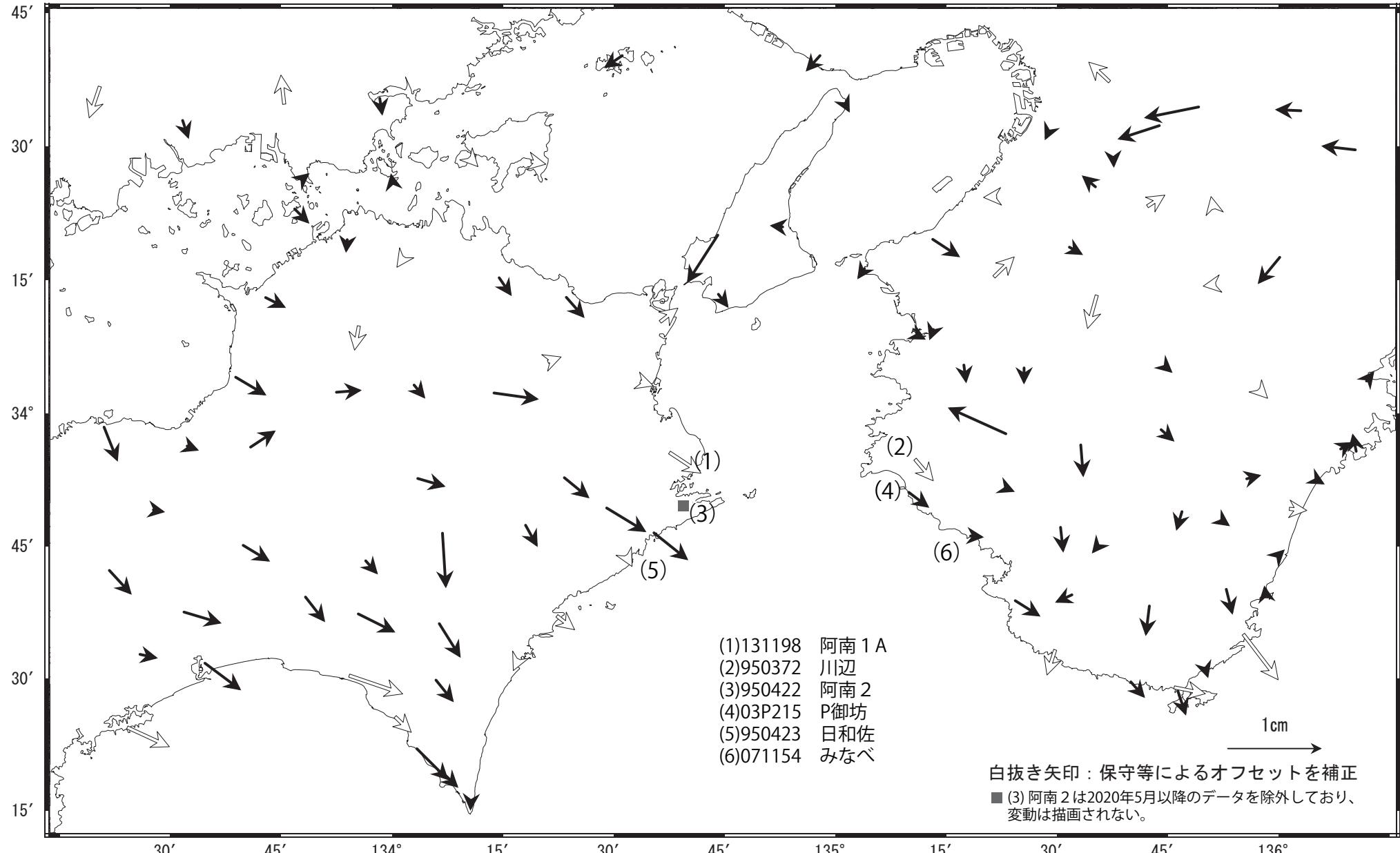
青丸はエンベロープ相関法（防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた  
低周波微動の震央を示す。

気象庁作成

# 紀伊半島西部・四国東部の非定常水平地殻変動(1次トレンド・年周期・半年周期除去後)

基準期間:2020/05/29～2020/06/04[F5:最終解]  
比較期間:2021/06/13～2021/06/19[R5:速報解]

計算期間:2017/01/01～2017/12/31

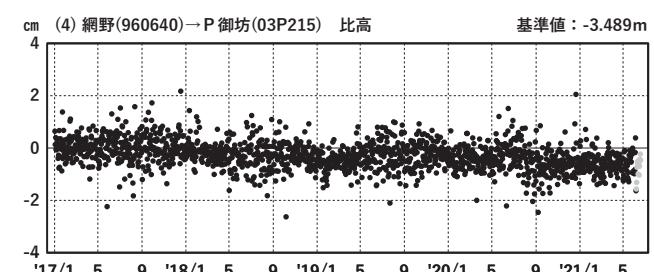
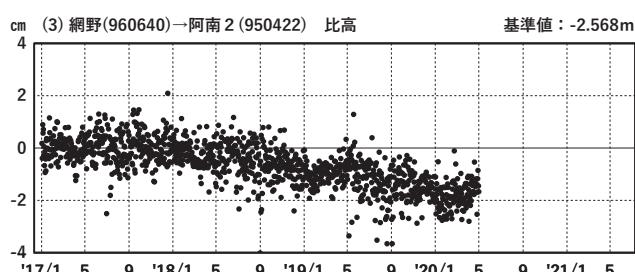
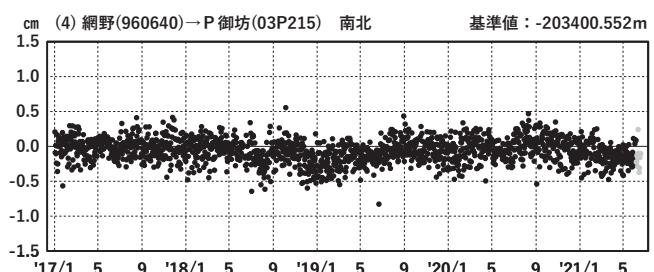
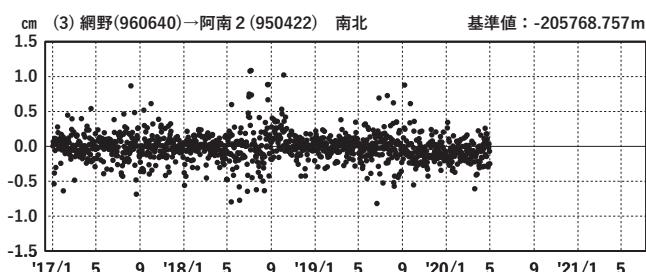
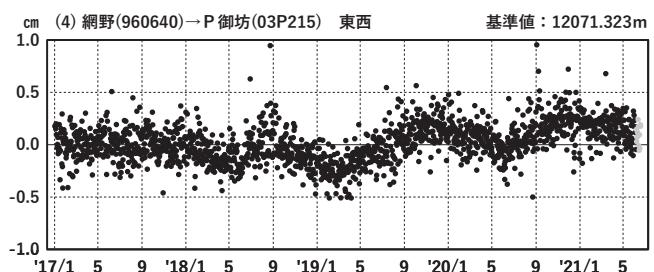
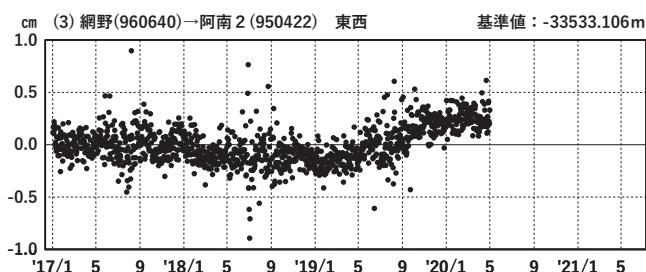
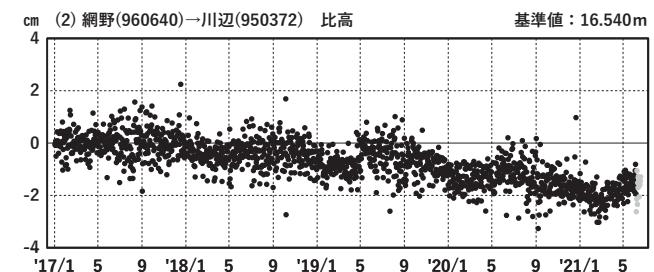
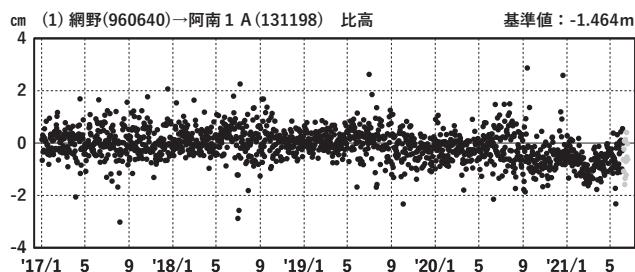
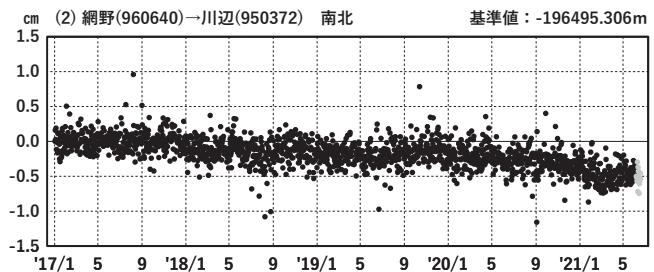
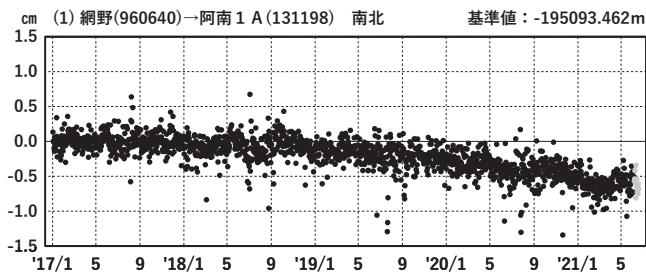
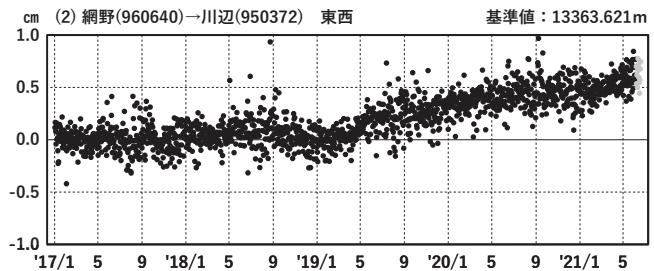
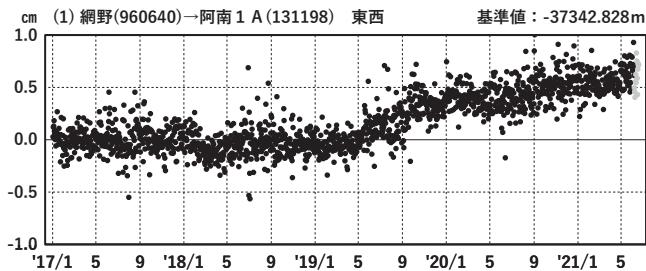


# 紀伊半島西部・四国東部 G N S S 連続観測時系列 (1)

## 1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2021/06/19 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01

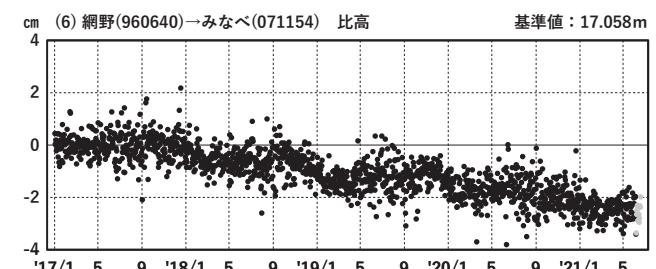
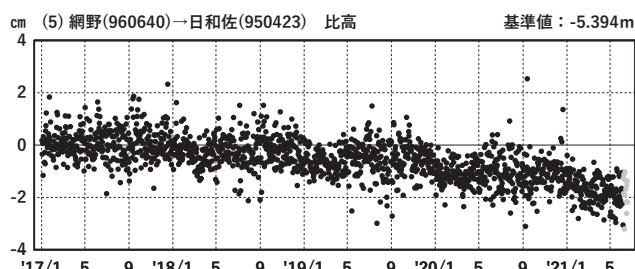
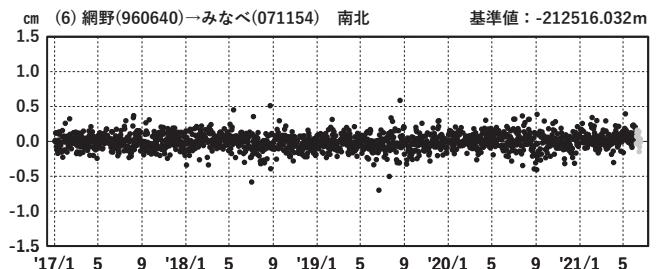
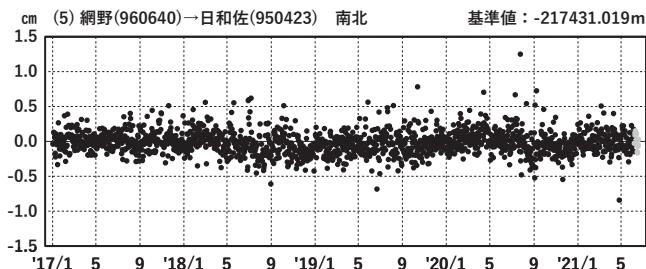
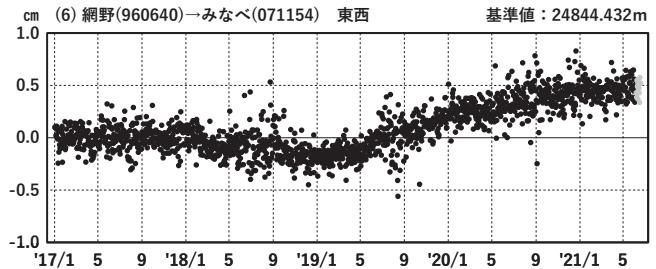
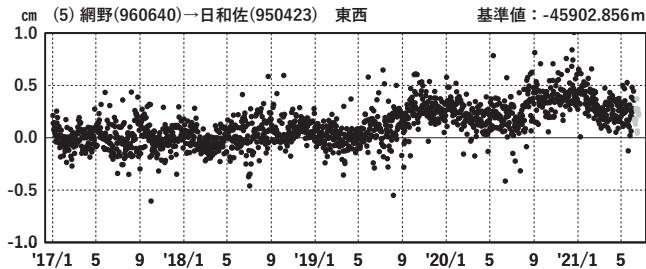


# 紀伊半島西部・四国東部 G N S S 連続観測時系列 (2)

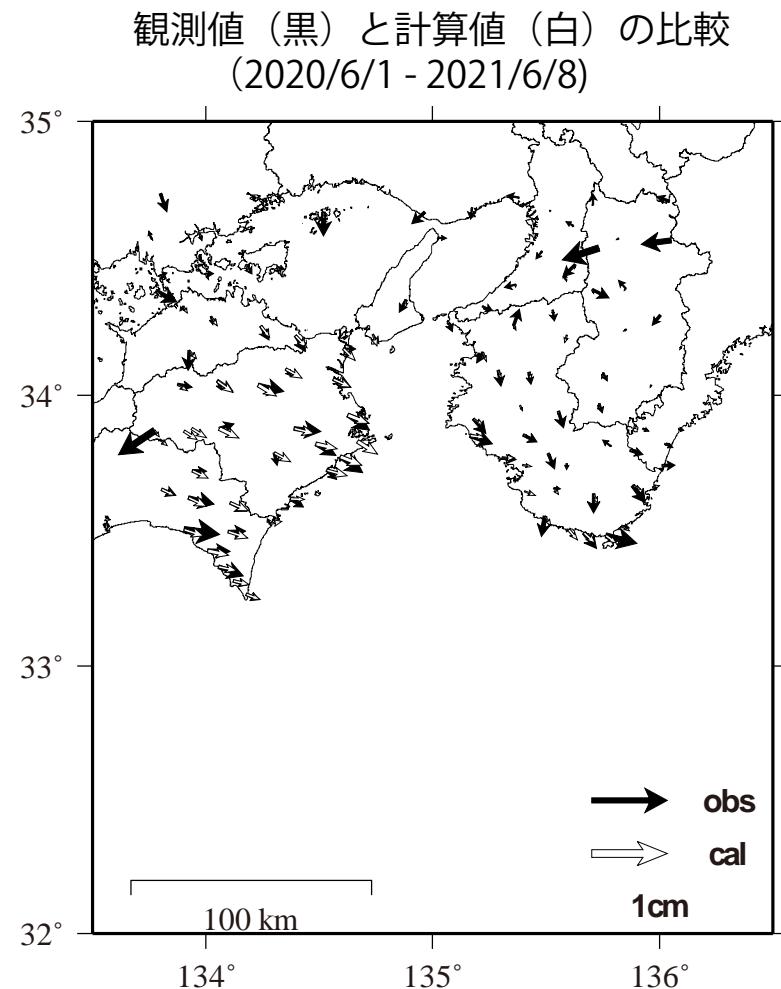
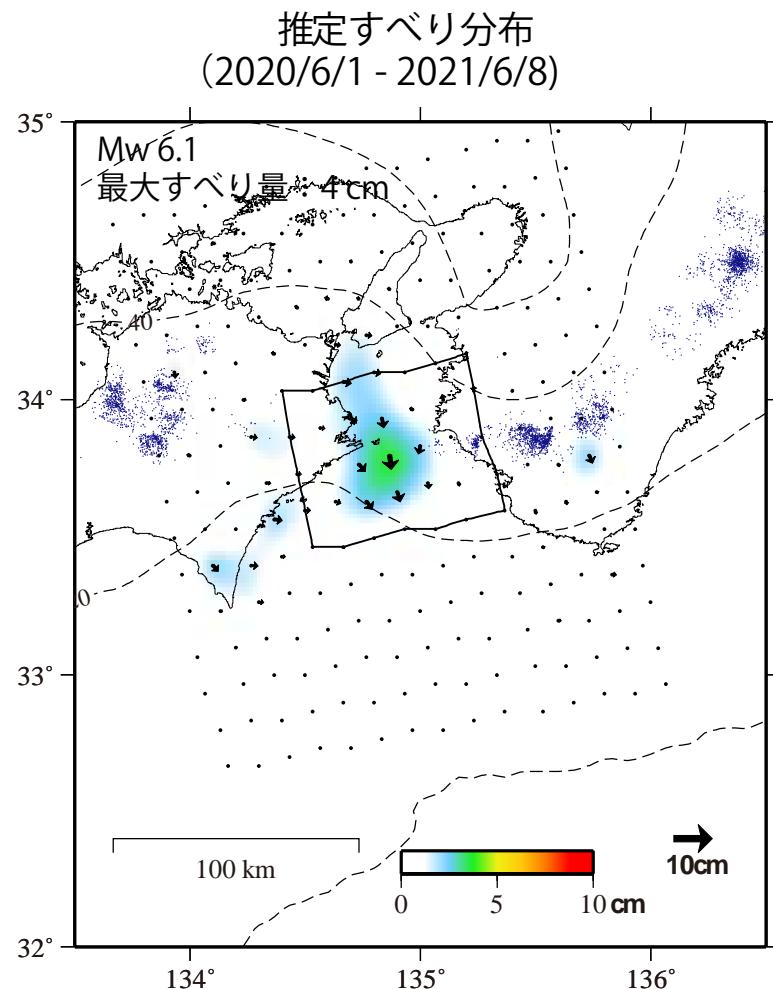
## 1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01～2021/06/19 JST

計算期間: 2017/01/01～2018/01/01



# GNSSデータから推定された紀伊水道の長期的ゆっくりすべり（暫定）



推定したすべり量が標準偏差 ( $\sigma$ ) の 3 倍以上のグリッドを黒色表示している。

使用データ：F5解 (2018/1/1 - 2021/5/29) + R5解 (2021/5/30 - 2021/6/8) ※電子基準点の保守等による変動は補正済み

トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1 (年周・半年周成分は 2017/1/1 - 2021/6/8 のデータで補正)

モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線 (弘瀬・他、2007)

すべり方向：東向きから南向きの範囲に拘束

※最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載 (前回までの資料は水平面への投影成分を評価。その場合の最大すべり量は4cm。)

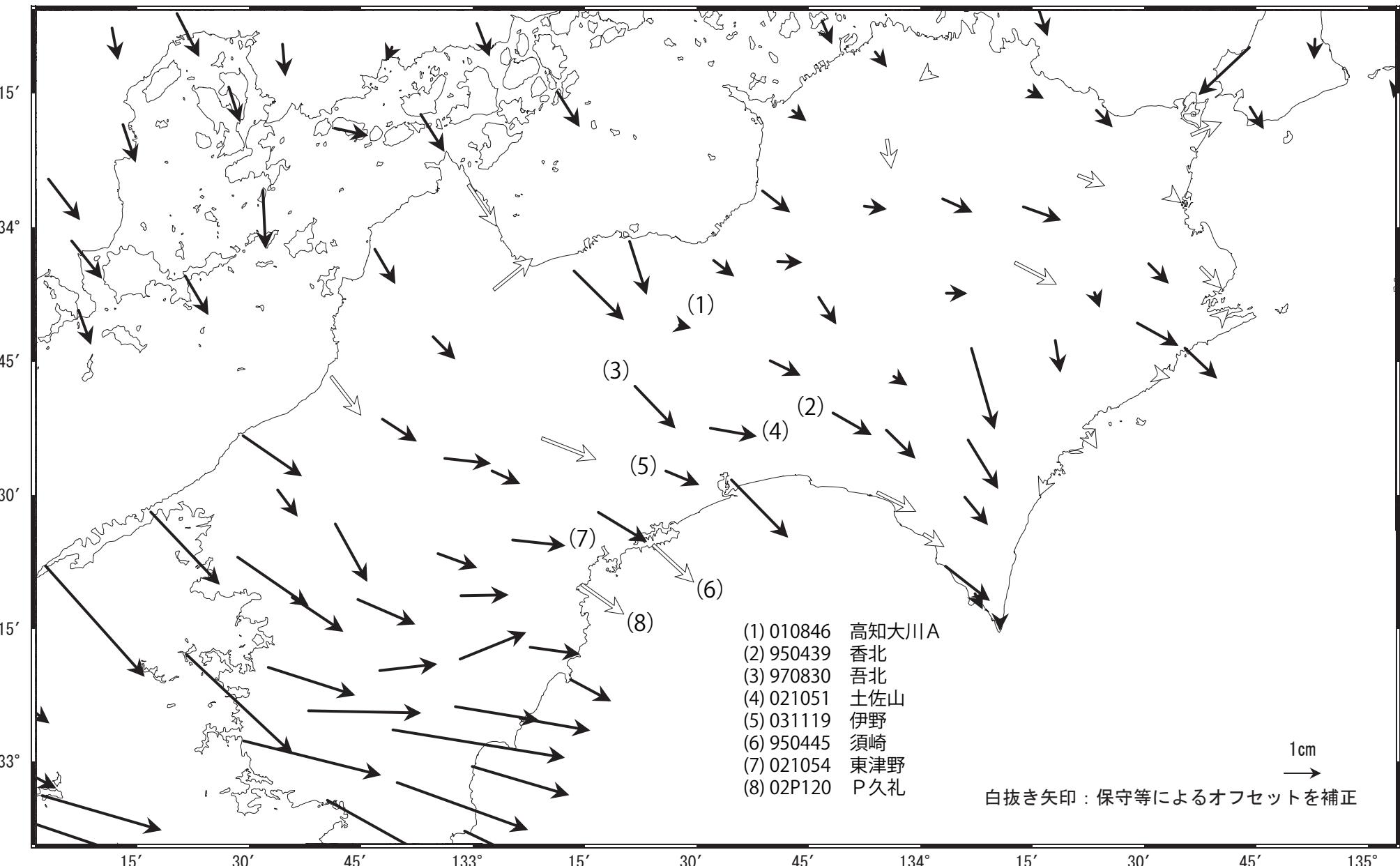
青丸：低周波地震（気象庁一元化震源）（期間：2020/6/1 - 2021/6/8）

固定局：網野

## 四国中部の非定常水平地殻変動(1次トレンド・年周期・半年周期除去後)

基準期間:2017/12/29～2018/01/04[F5:最終解]  
比較期間:2021/06/13～2021/06/19[R5:速報解]

計算期間:2017/01/01～2018/01/01

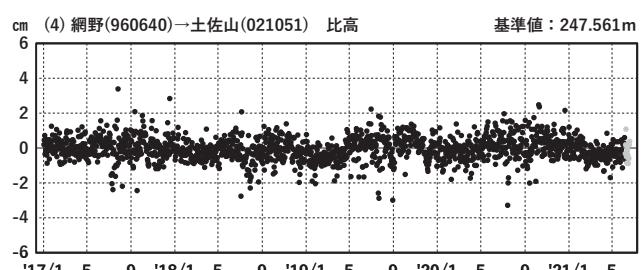
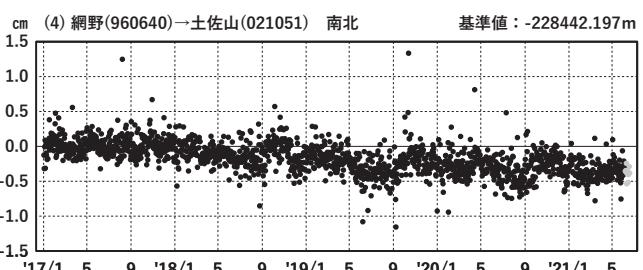
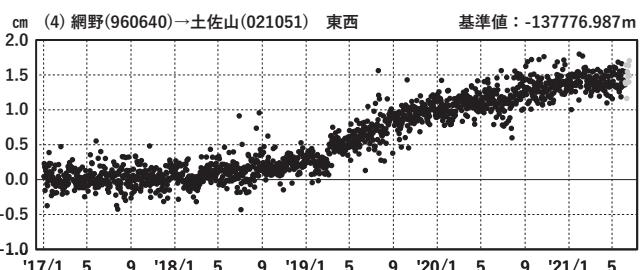
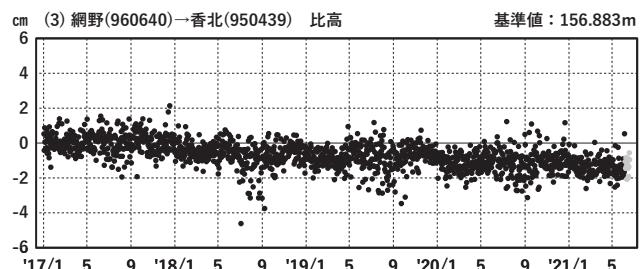
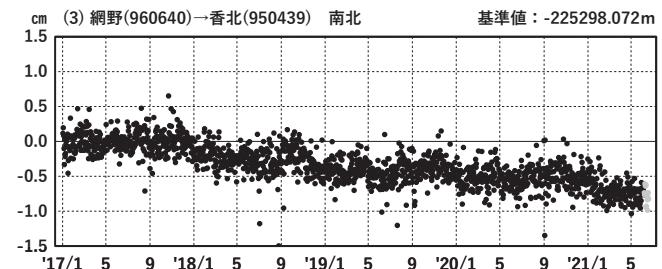
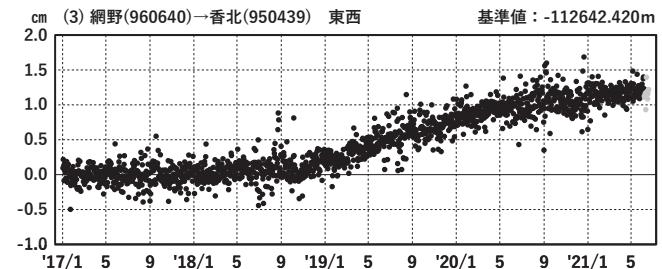
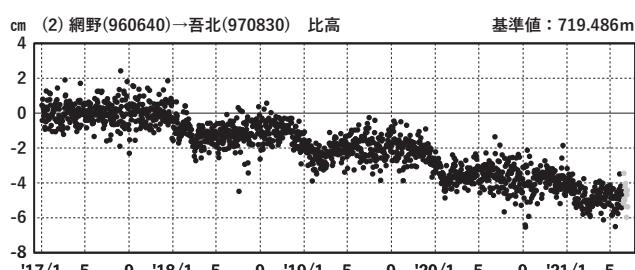
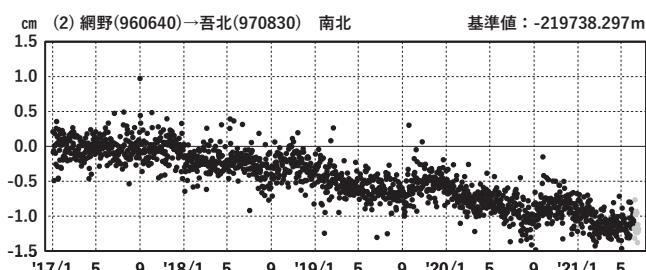
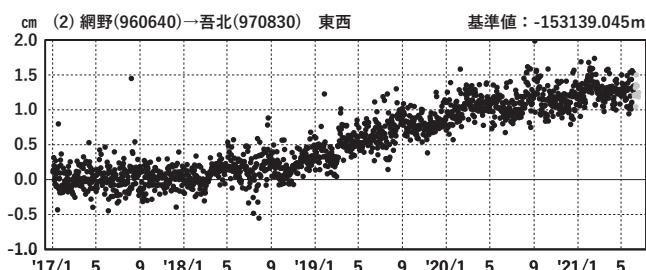
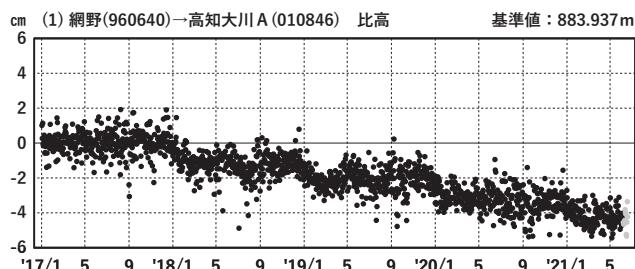
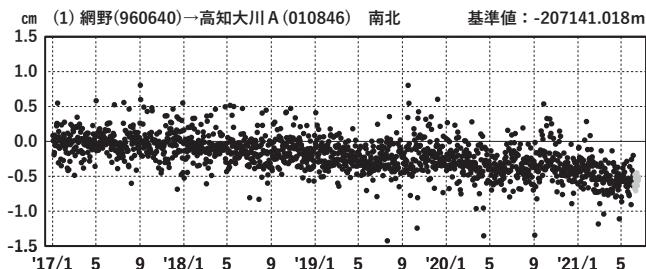
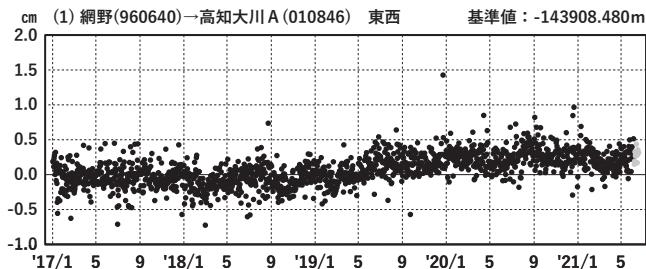


# 四国中部 G N S S 連続観測時系列 (1)

## 1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01～2021/06/19 JST

計算期間: 2017/01/01～2018/01/01

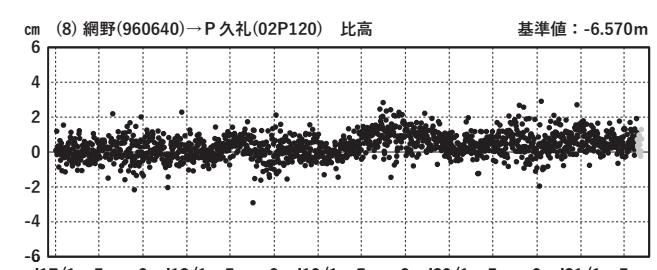
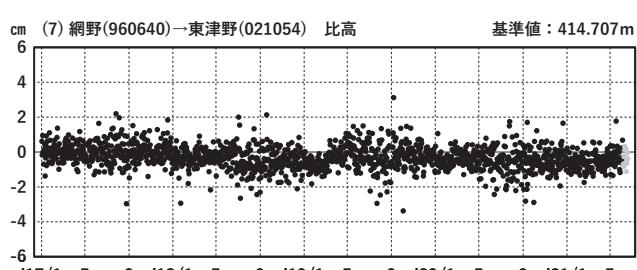
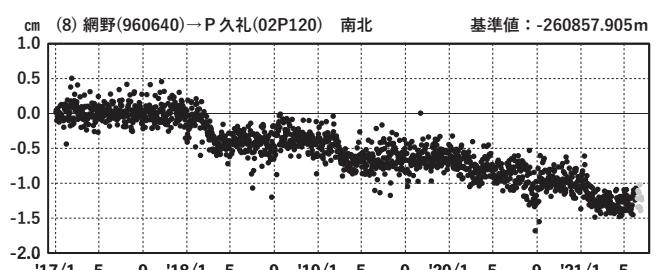
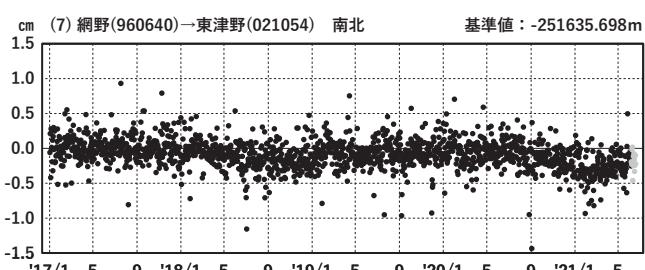
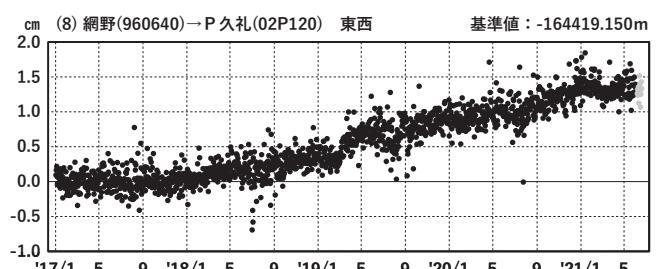
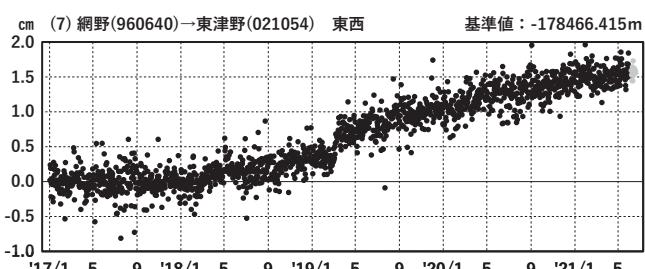
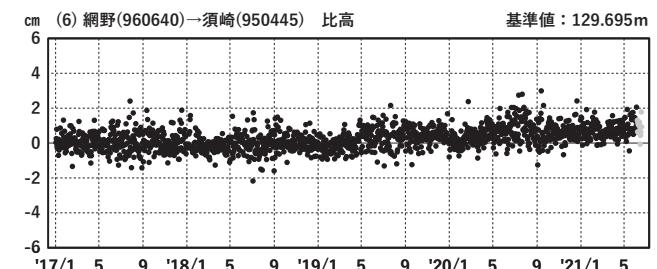
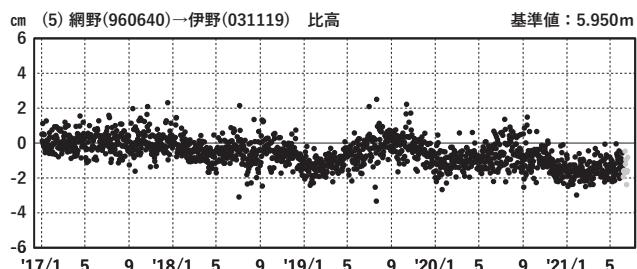
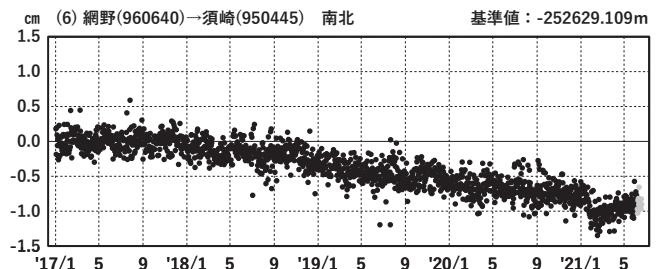
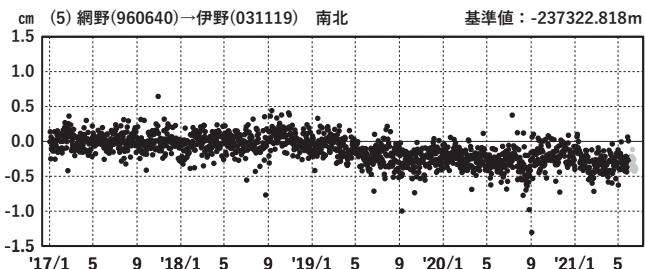
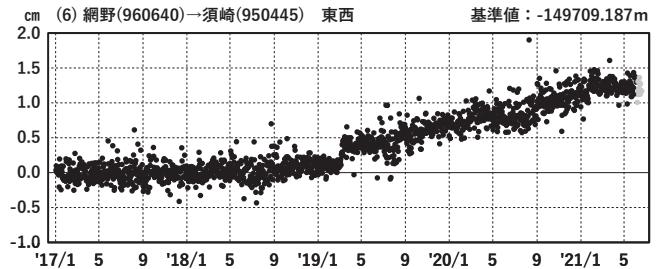
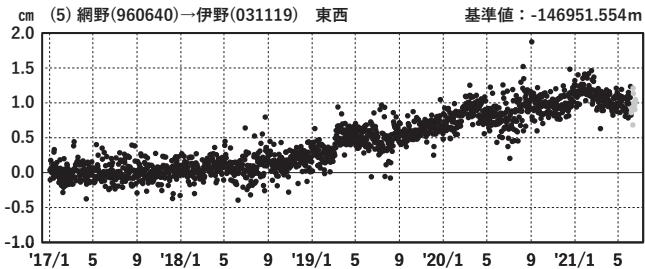


# 四国中部 G N S S 連続観測時系列 (2)

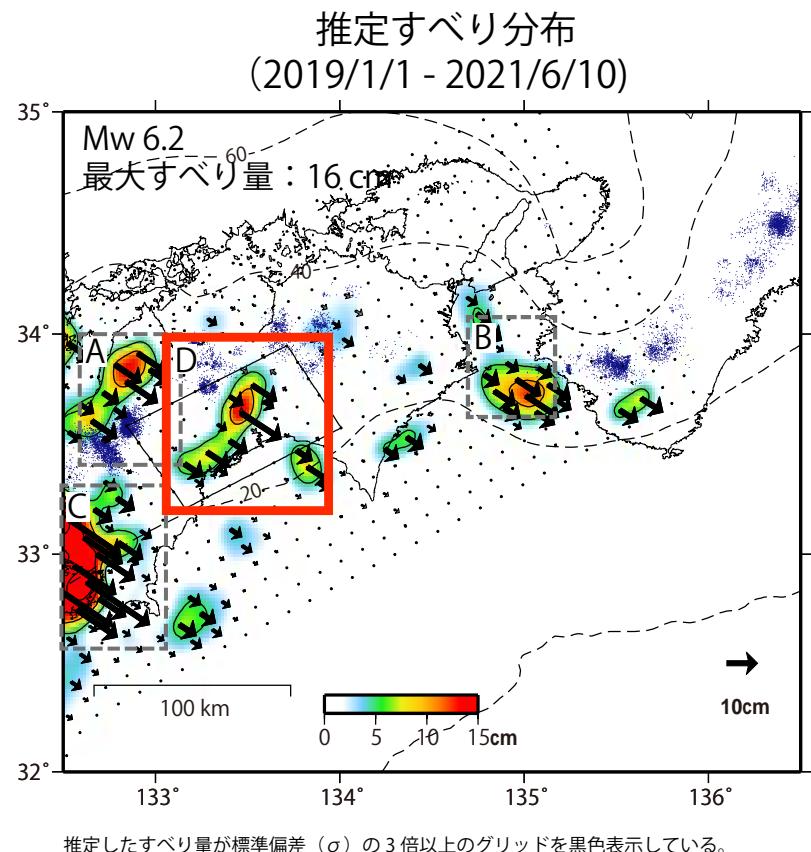
## 1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2021/06/19 JST

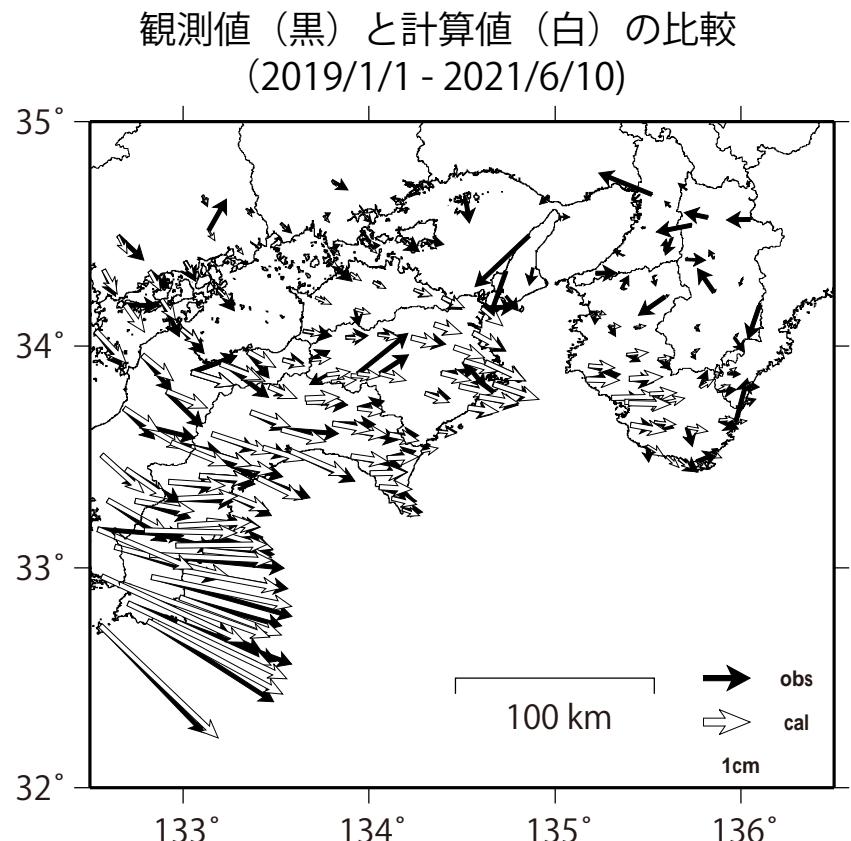
計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



# GNSSデータから推定された四国中部の長期的ゆっくりすべり（暫定）



- A 四国西部の短期的ゆっくりすべり
- B 紀伊水道の長期的ゆっくりすべり
- C 豊後水道の長期的ゆっくりすべり
- D 四国中部の長期的ゆっくりすべり



使用データ：F5解 (2019/1/1 - 2021/5/29) + R5解 (2021/5/30 - 2021/6/10) ※電子基準点の保守等による変動は補正済み

トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1 (年周・半年周成分は2017/1/1 - 2021/6/10のデータで補正)

モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線 (弘瀬・他、2007)

すべり方向：プレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束

※最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載（前回までの資料は水平面への投影成分を評価。その場合の最大すべり量は16cm。）

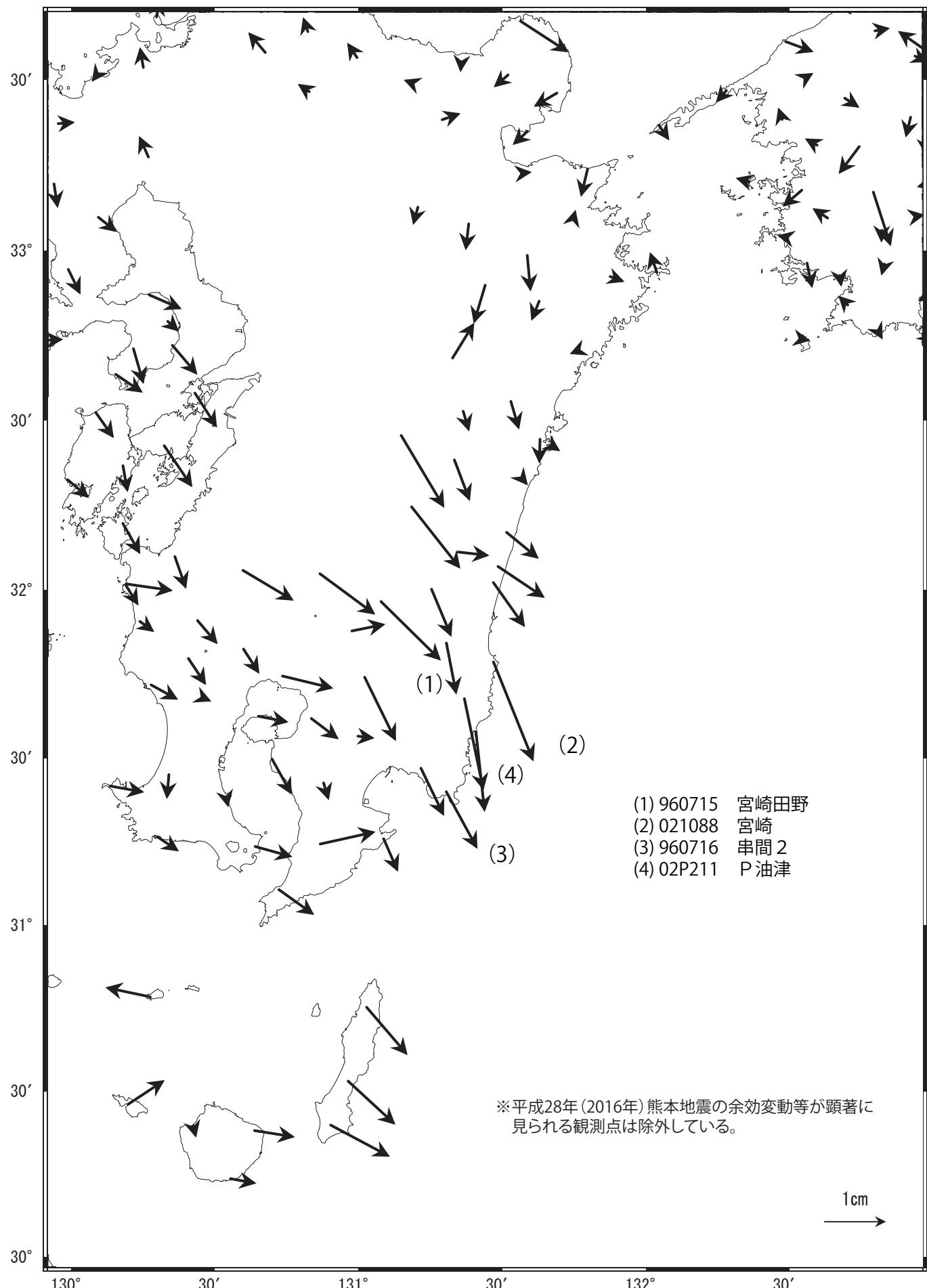
青丸：低周波地震（気象庁一元化震源）(2019/1/1 - 2021/6/10)

固定局：網野

# 九州地域の非定常水平地殻変動(1次トレンド除去後)

基準期間:2020/01/01～2020/01/07[F5:最終解]  
比較期間:2021/06/13～2021/06/19[R5:速報解]

計算期間:2012/01/01～2013/03/01

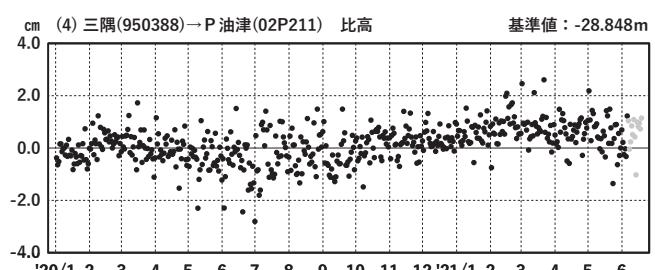
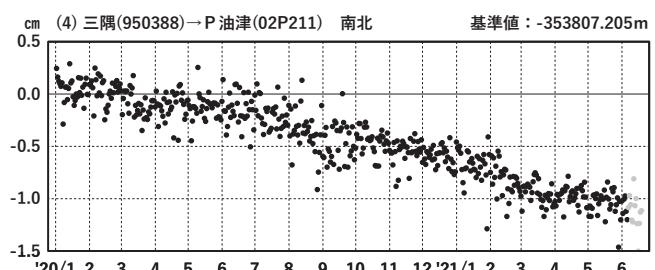
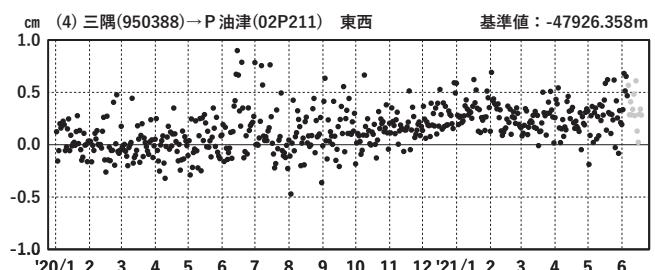
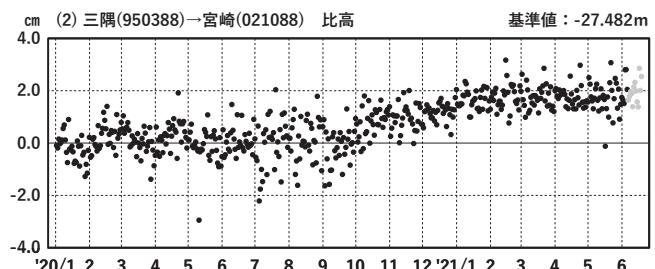
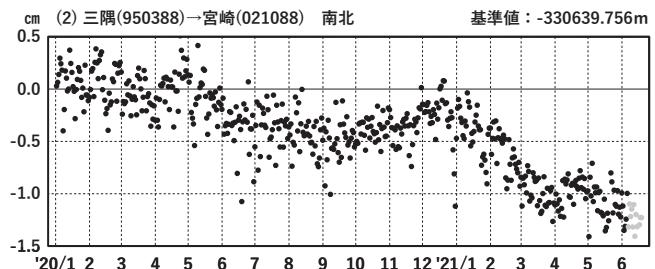
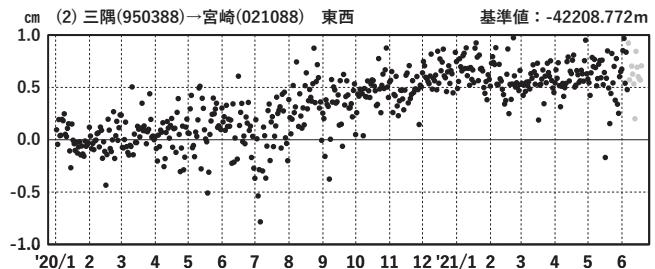
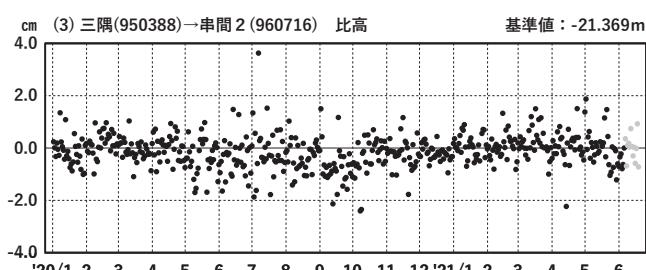
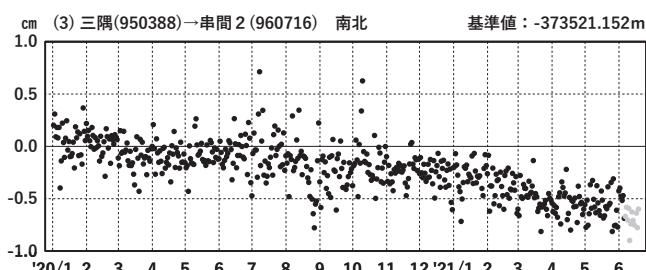
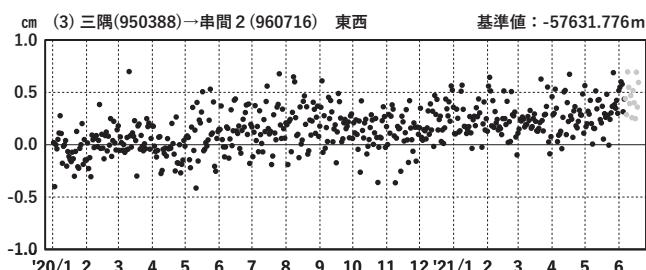
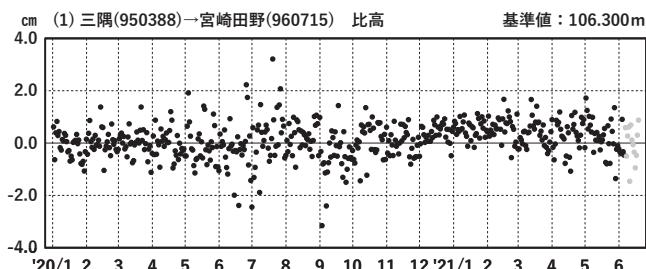
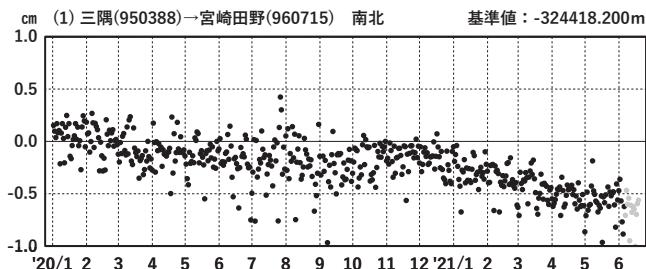
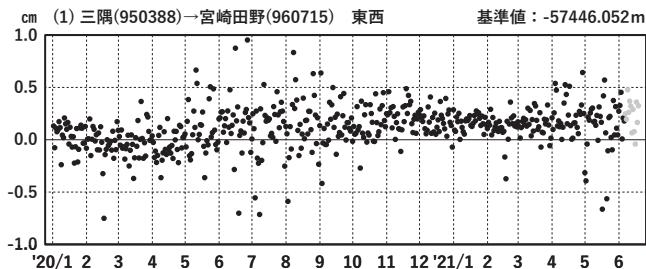


# 九州地域 G N S S 連続観測時系列

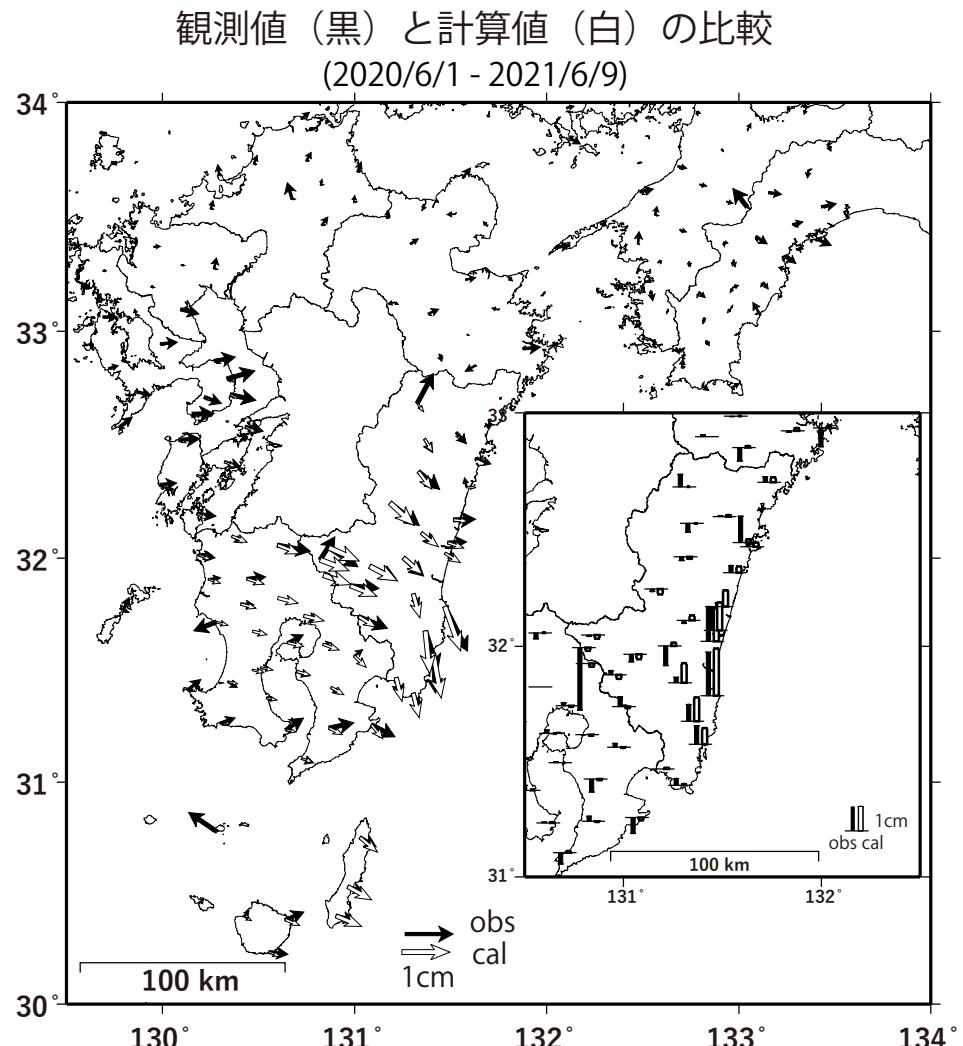
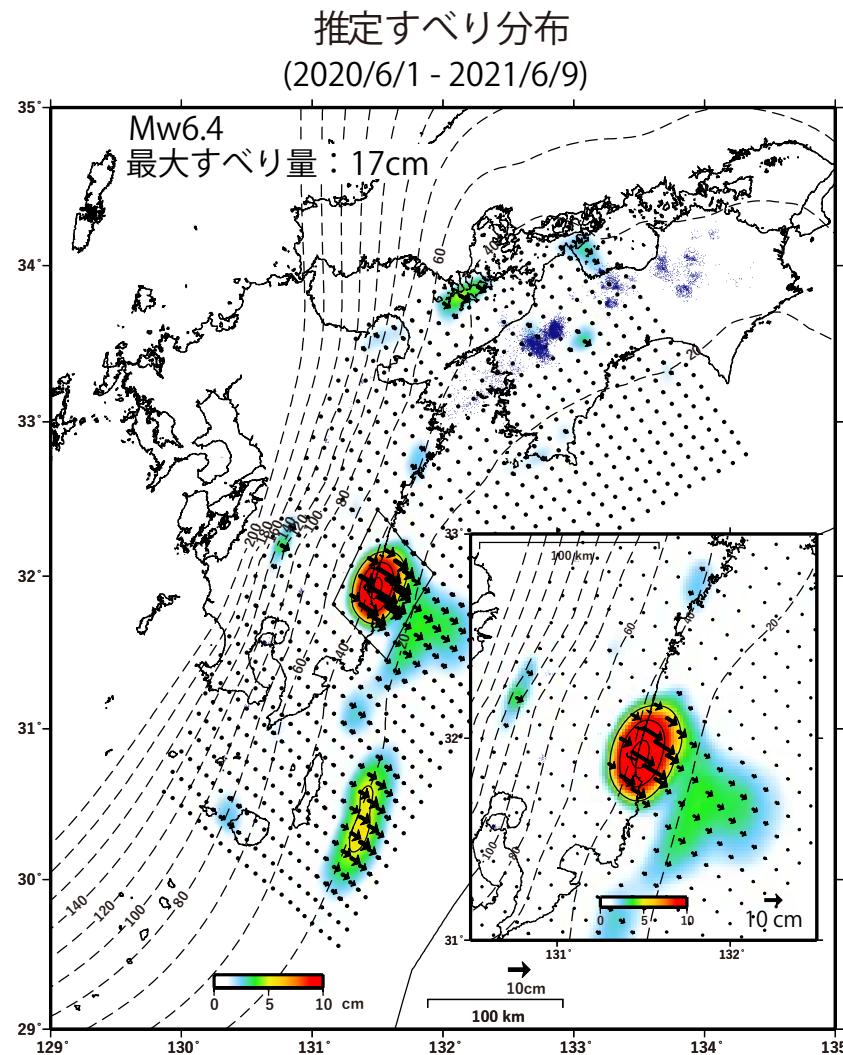
## 1次トレンド除去後グラフ

期間: 2020/01/01～2021/06/19 JST

計算期間: 2012/01/01～2013/03/01



# GNSSデータから推定された日向灘南部の長期的ゆっくりすべり(暫定)



推定したすべり量が標準偏差 ( $\sigma$ ) の3倍以上のグリッドを黒色表示している。

使用データ：F5解 (2020/1/1 - 2021/5/29) + R5解 (2021/5/30 - 2021/6/9) ※電子基準点の保守等による変動は補正済み

トレンド期間：2012/1/1 - 2013/3/1 (年周・半年周成分は補正無し) ※平成28年(2016年)熊本地震の余効変動等が顕著に見られる観測点は除外している。

モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線 (弘瀬・他、2007)

すべり方向：プレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束

※最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載 (前回までの資料は水平面への投影成分を評価。その場合の最大すべり量は15cm。)

青丸：低周波地震 (気象庁一元化震源) (期間：2020/6/1 - 2021/6/9)

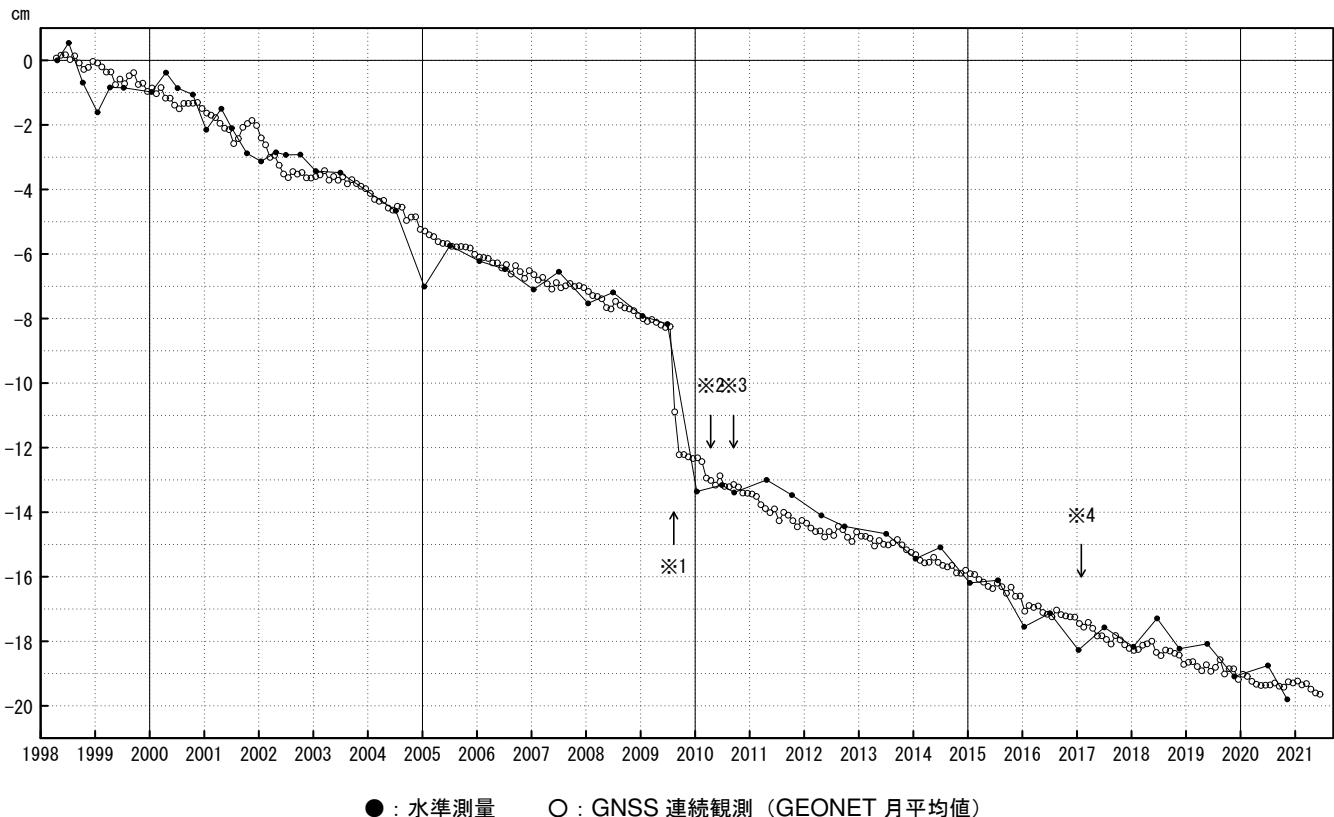
固定局：三隅

# 御前崎 電子基準点の上下変動

## 水準測量と GNSS 連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



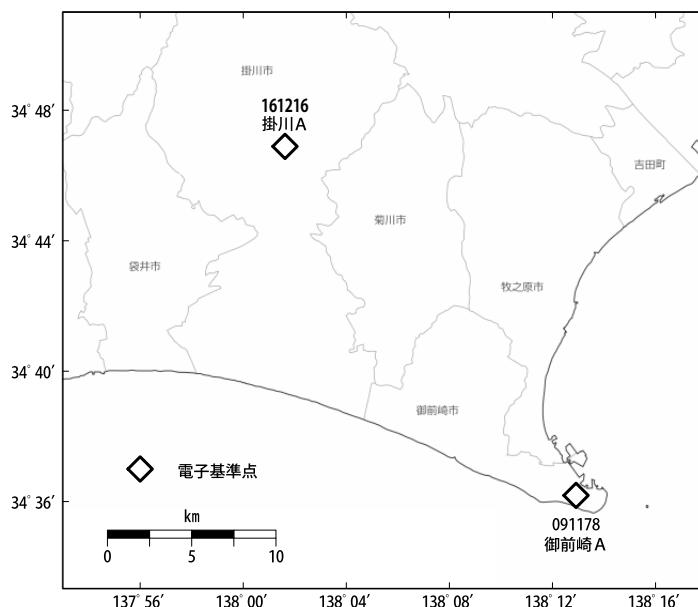
- ・ 水準測量による結果は、最初のプロット点の値を 0cm として描画している。
- ・ GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5 : 最終解) から計算した値の月平均値。最新のプロット点は 6/1~6/5 の平均。
- ・ GNSS 連続観測による結果については、水準測量の全期間との差が最小となるように描画している。

※ 1 電子基準点「御前崎」は 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震 (M6.5) に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。

※ 2 2010 年 4 月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎 A」とした。上記グラフは電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎 A」のデータを接続して表示している。

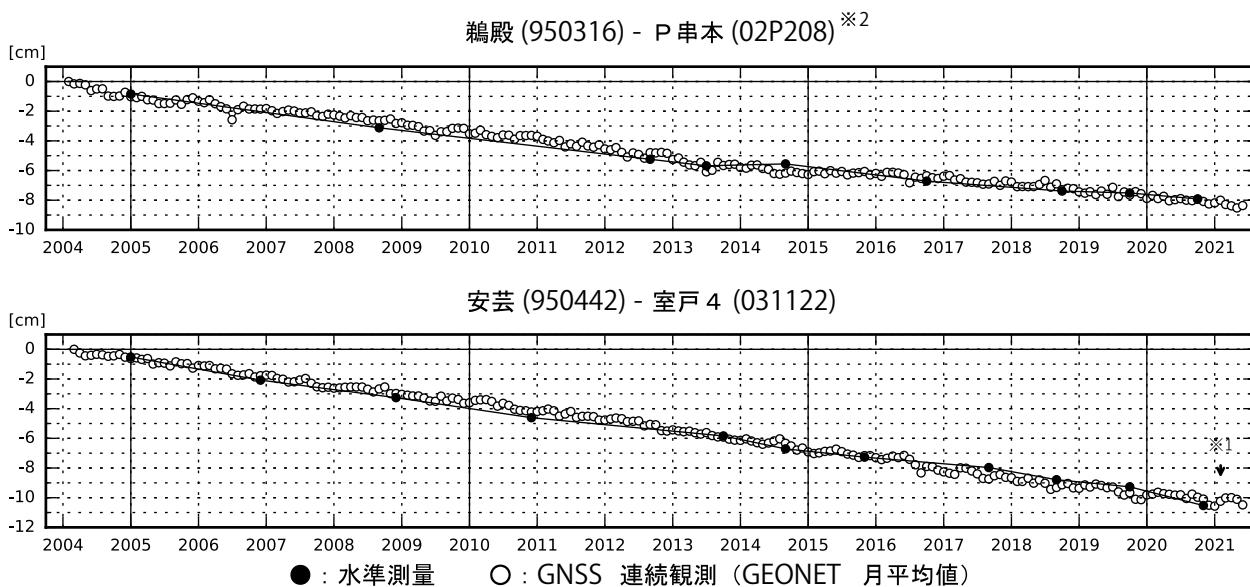
※ 3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる 2010 年 9 月から表示している。

※ 4 2017 年 1 月 30 日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川 A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川 A」のデータを接続して表示している。



# 紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

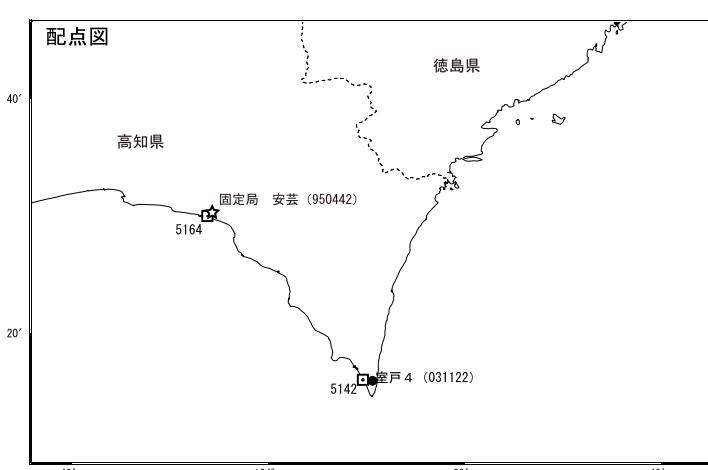
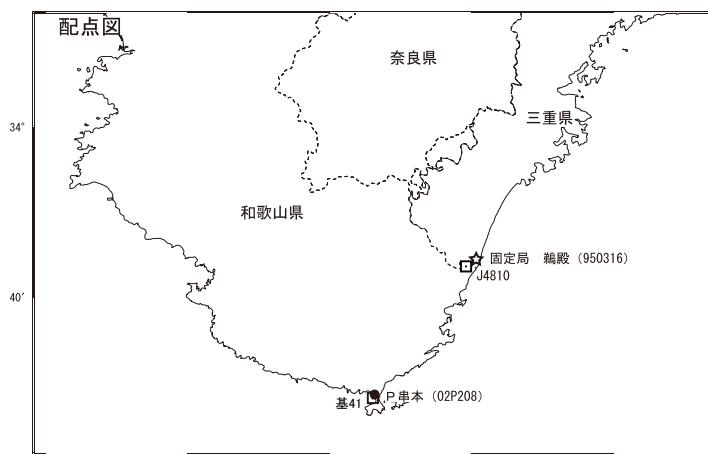
潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。



- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5 : 最終解) から計算した値の月平均値である。  
(最新のプロット点 : 6/1~6/5 の平均値)
- 水準測量の結果は、最寄りの一等水準点の結果を表示しており、GNSS 連続観測の全期間の値との差が最小となるように描画している。
- 水準測量による結果については、最寄りの一等水準点の結果を表示している。

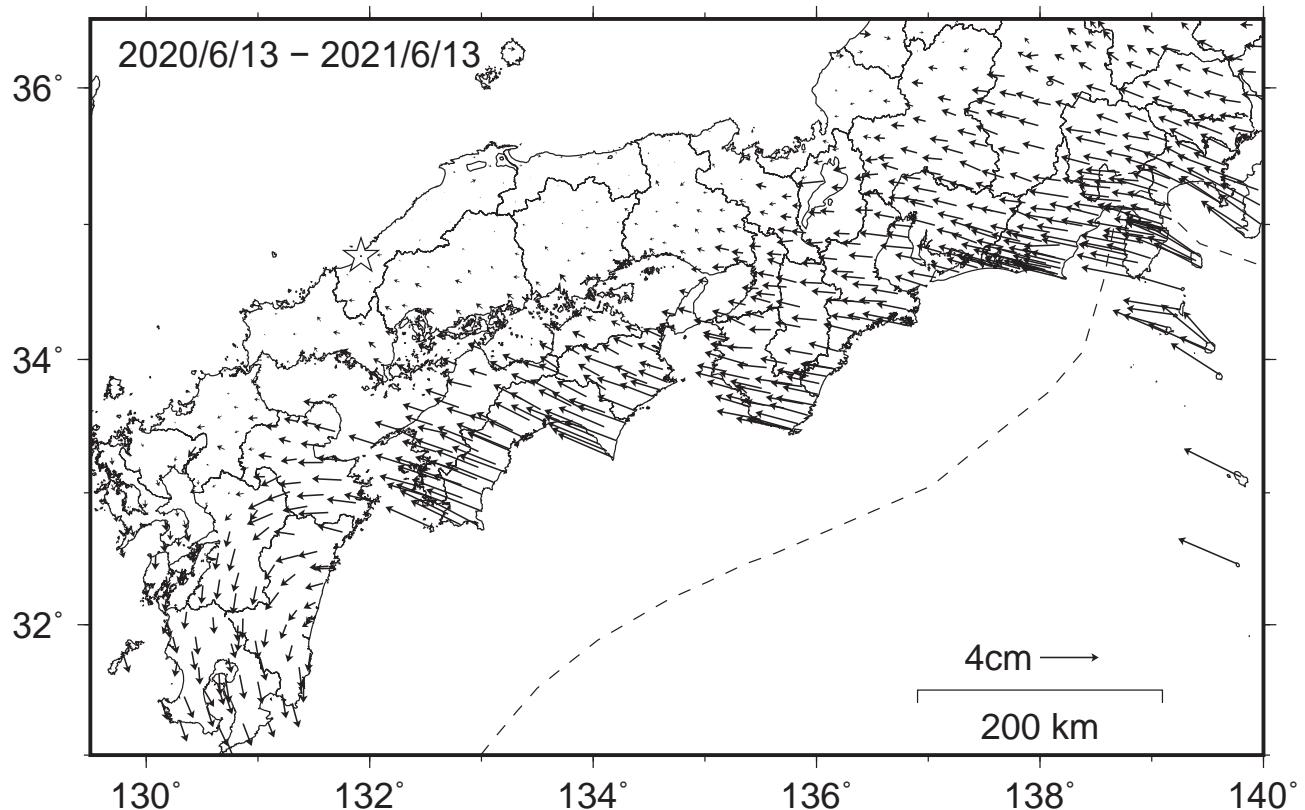
※1 2021/2/2に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。

※2 2020/12頃から串本(940070)にデータのばらつきが見られるため、近傍のP串本(02P208)に変更した。

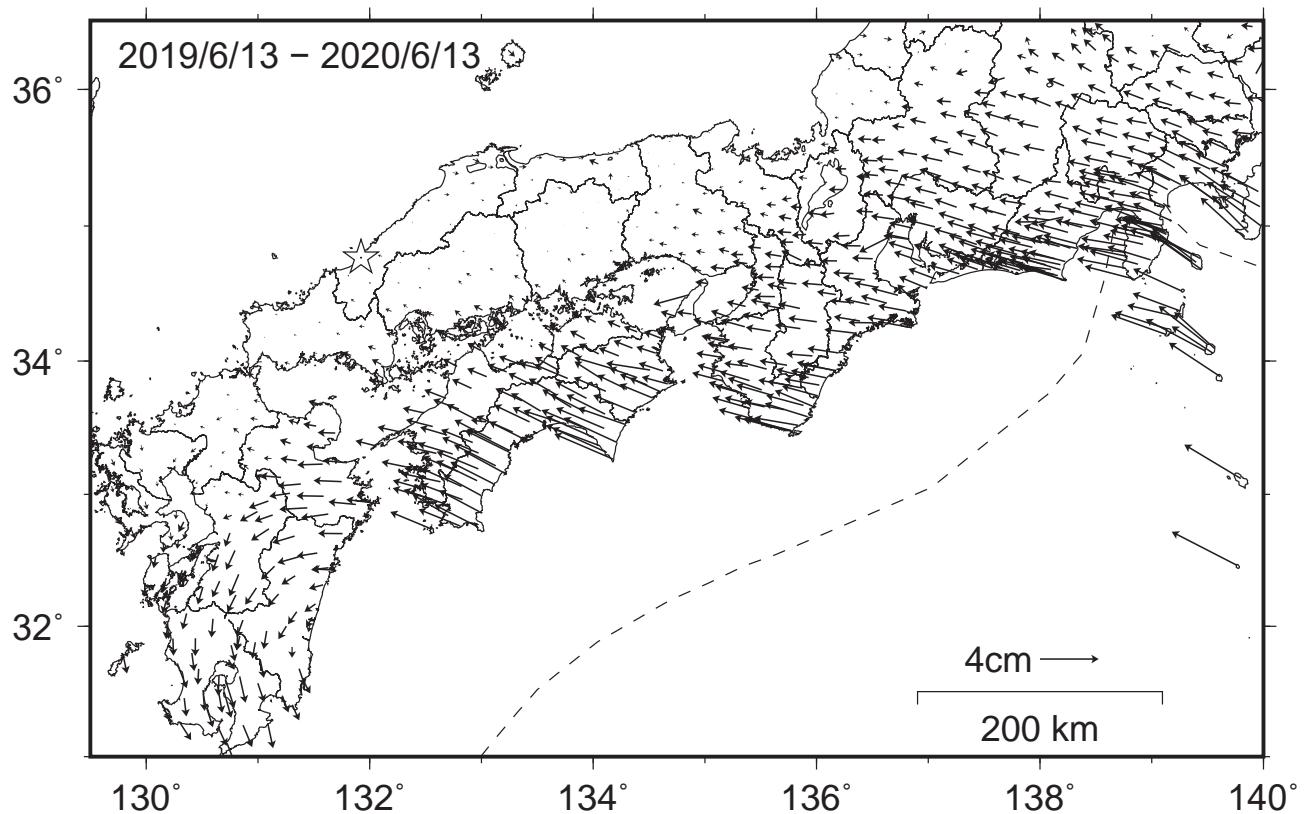


## 南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近 1 年間】



【1 年前の 1 年間】



- GEONET による日々の座標値 (F5 解、R5 解) を使用している。
- 各日付 ± 6 日の計 13 日間の変動量の中央値をとり、その差から 1 年間の変動量を表示している。

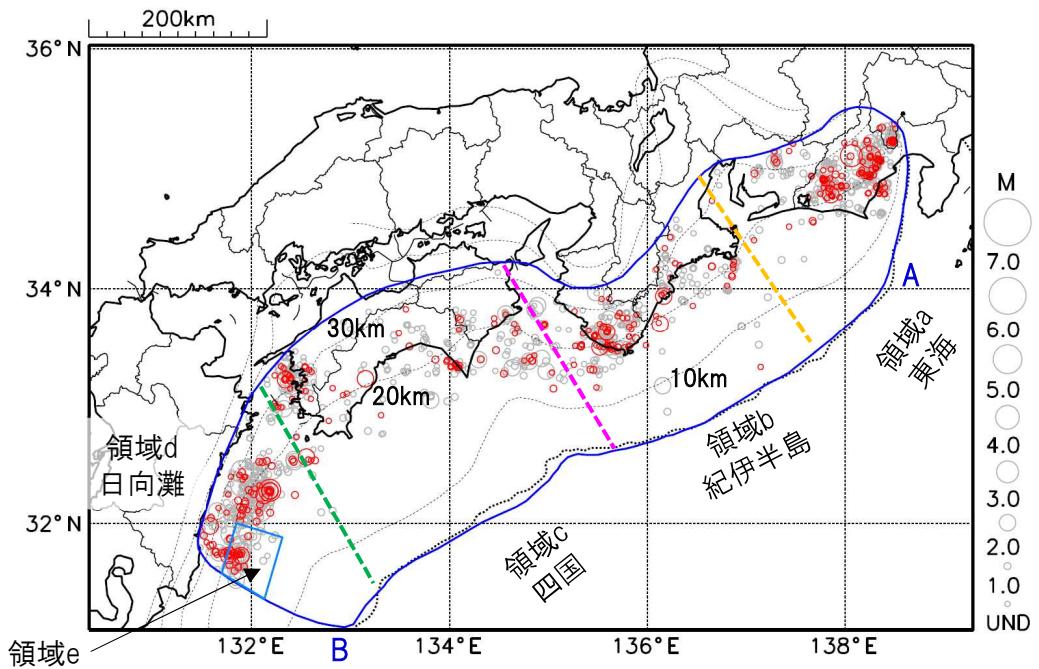
# プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

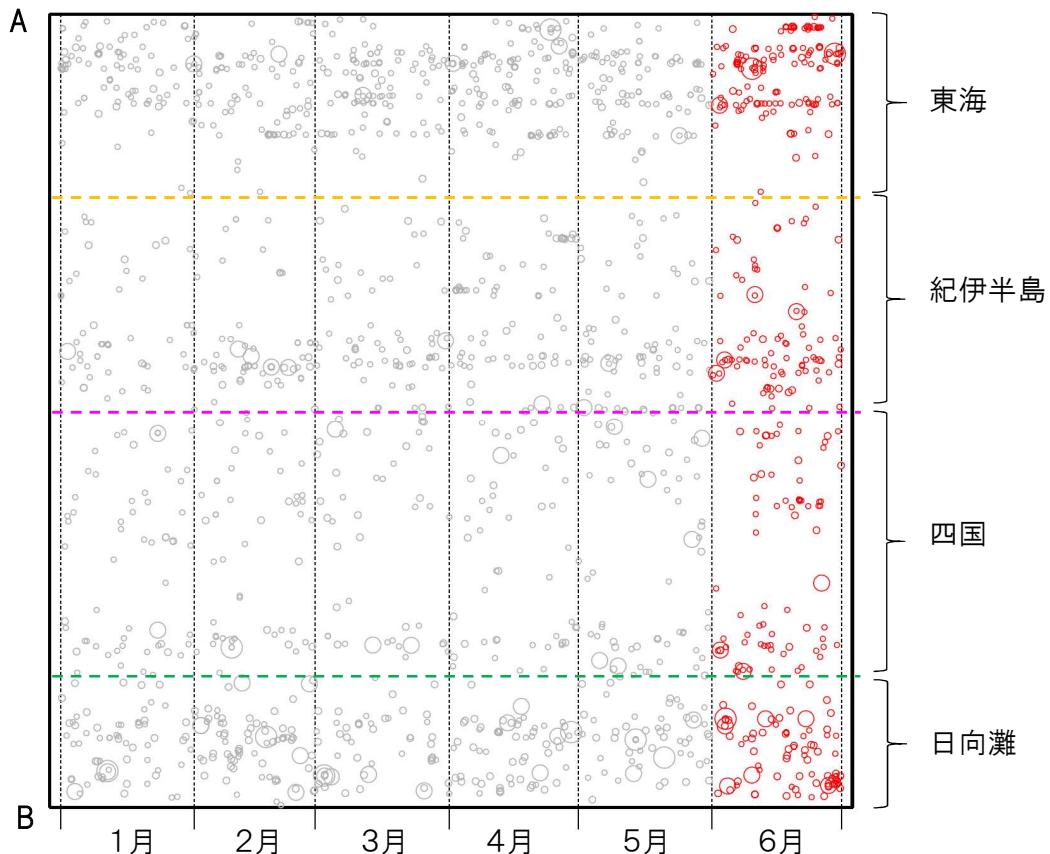
日向灘の領域e内のみ、深さ20km～30kmの地震を追加している。

震央分布図

(2021年1月1日～2021年6月30日、M全て、2021年6月の地震を赤く表示)



南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図(A-B投影)



・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。

・今期間の地震のうち、M3.2以上の地震で想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震に吹き出しを付している。吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差(+は浅い、-は深い)を示す。

・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

気象庁作成

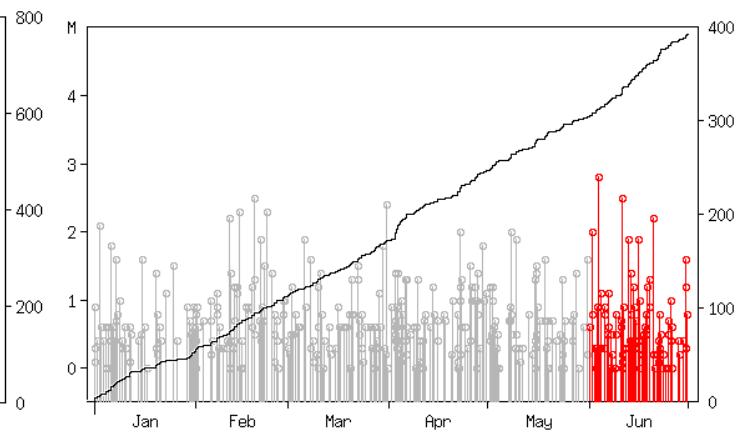
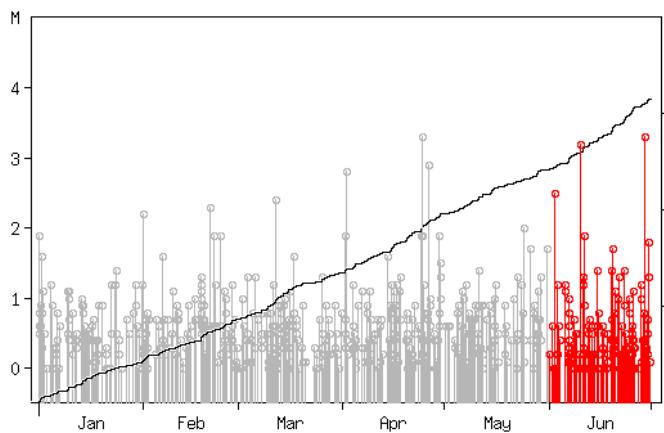
# プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図・回数積算図

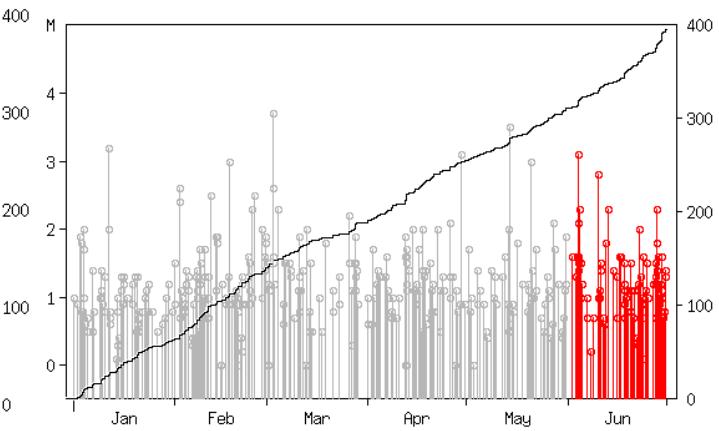
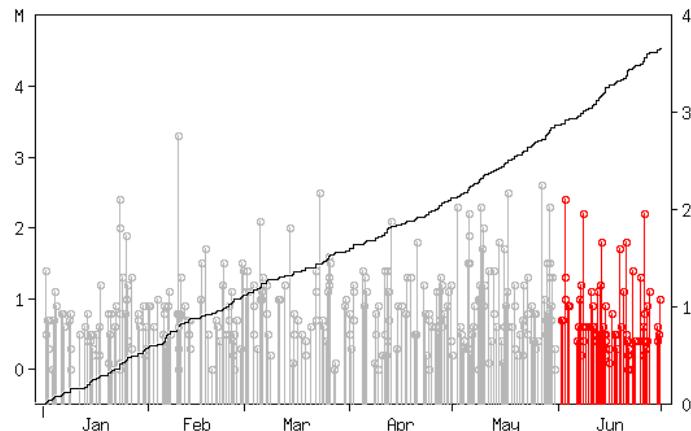
領域a内(東海)

領域b内(紀伊半島)



領域c内(四国)

領域d内(日向灘)

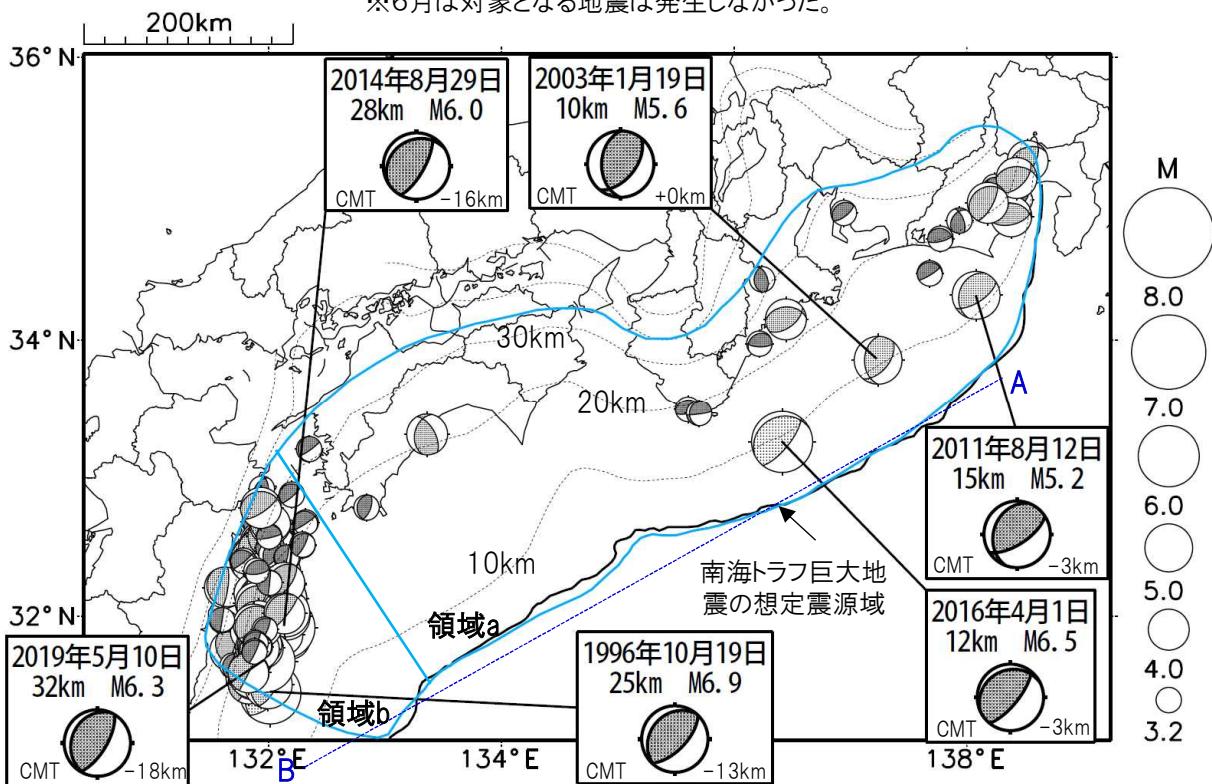


※M全ての地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図は参考として表記している。

# 想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

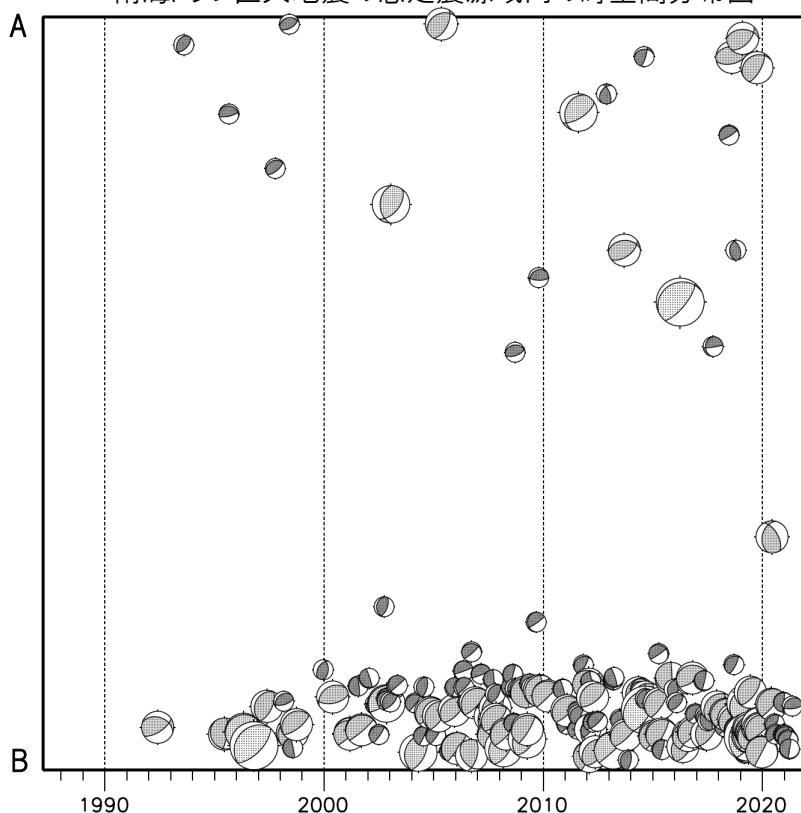
震央分布図(1987年9月1日～2021年6月30日、M $\geq$ 3.2、2021年6月の地震を赤く表示)

※6月は対象となる地震は発生しなかった。



- ・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
- ・今期間に発生した地震(赤)、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。
- ・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
- ・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。
- ・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。
- ・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

## 【抽出条件】

- ・M3.2以上の地震
- ・領域a内(南海トラフの想定最大規模の想定震源域内)で発生した地震
- ・発震機構解が以下の条件を全て満たしたもの

のを抽出した。  
P軸の傾斜角が45度以下  
P軸の方位角が65度以上180度以下(※)  
T軸の傾斜角が45度以上  
N軸の傾斜角が30度以下

※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様  
・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。  
・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。  
・東海地方から四国地方(領域a)は、フィリピン海プレート上面の深さから±10km未満の地震のみ抽出した。日向灘(領域b)は、+10km～-20km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

気象庁作成

# 南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2021年6月30日

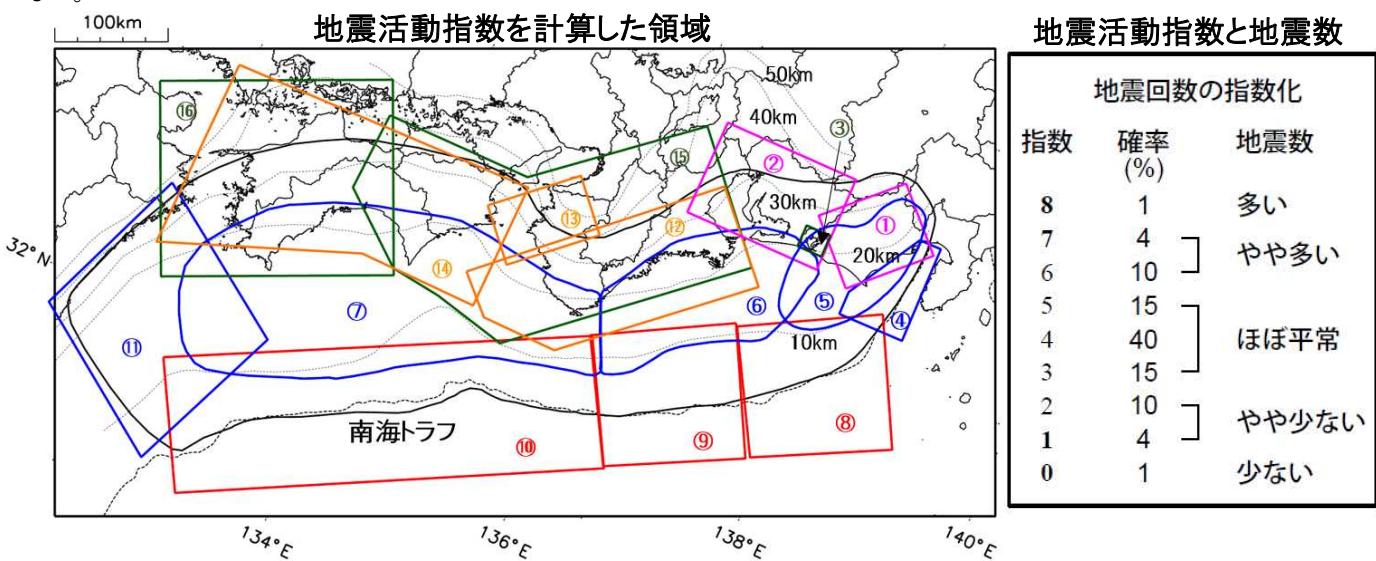
領域	①静岡県 中西部		②愛知県		③浜名湖 周辺	④駿河 湾	⑤東海	⑥東南 海	⑦ 南海
	地	プ	地	プ	プ	全	全	全	全
地震活動指数	5	4	4	4	6	4	3	3	7
平均回数	16.5	18.5	26.5	13.7	13.4	13.2	18.2	19.4	21.4
MJきい値	1.1		1.1		1.1	1.4	1.5	2.0	2.0
クラスタ 除去	距離	3km		3km		3km	10km	10km	10km
	日数	7日		7日		7日	10日	10日	10日
対象期間	60日	90日	60日	30日	360日	180日	90日	360日	90日
深さ	0~ 30km	0~ 60km	0~ 30km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 100km	0~ 100km

領域	南海トラフ沿い		⑪日向 灘	⑫紀伊 半島	⑬和歌 山	⑭四国	⑮紀伊半 島	⑯四国
	⑧東側	⑩西側						
	全	全	全	地	地	地	プ	プ
地震活動指数	6	1	5	7	3	8	6	3
平均回数	12.4	14.7	20.7	22.9	41.7	30.6	27.8	28.1
MJきい値	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
クラスタ 除去	距離	10km	10km	10km	3km	3km	3km	3km
	日数	10日	10日	10日	7日	7日	7日	7日
対象期間	720日	360日	60日	120日	60日	90日	30日	30日
深さ	0~ 100km	0~ 100km	0~ 100km	0~ 20km	0~ 20km	0~ 20km	20~ 100km	20~ 100km

\* 基準期間は、全領域1997年10月1日～2021年6月30日

\* 領域欄の「地」は地殻内、「プ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけであり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

\* ⑨の領域(三重県南東沖)は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。



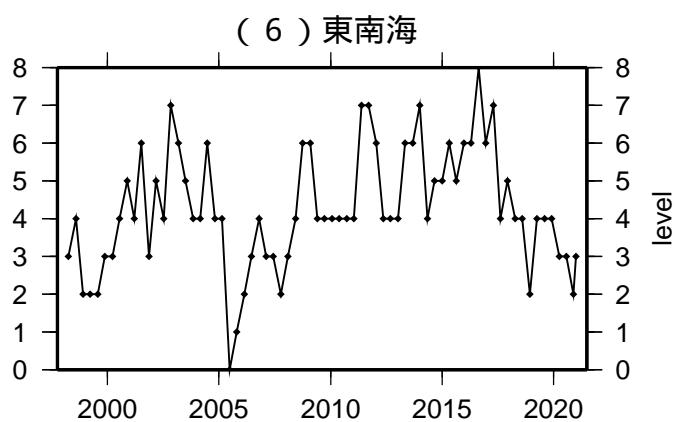
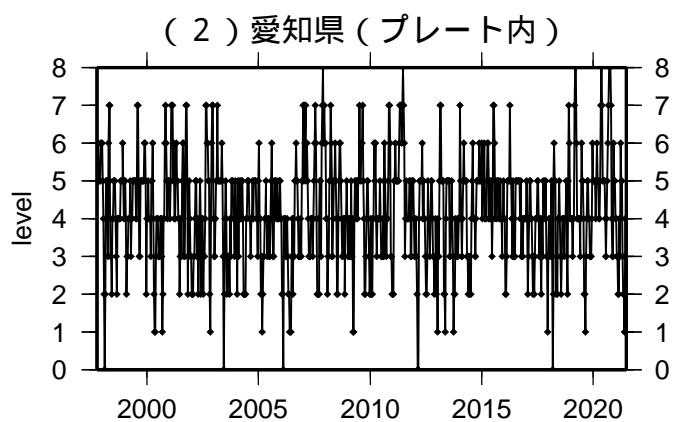
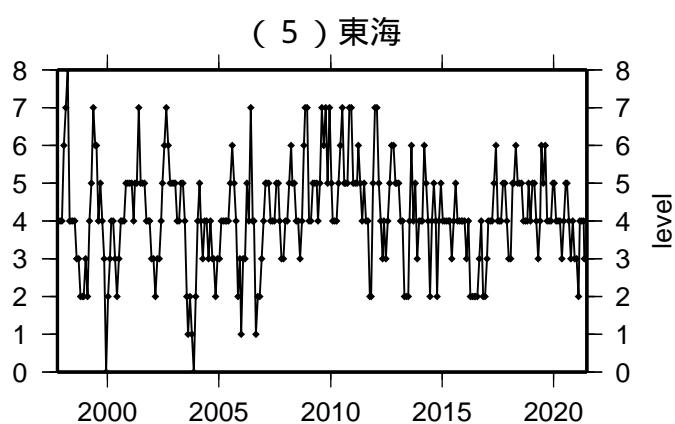
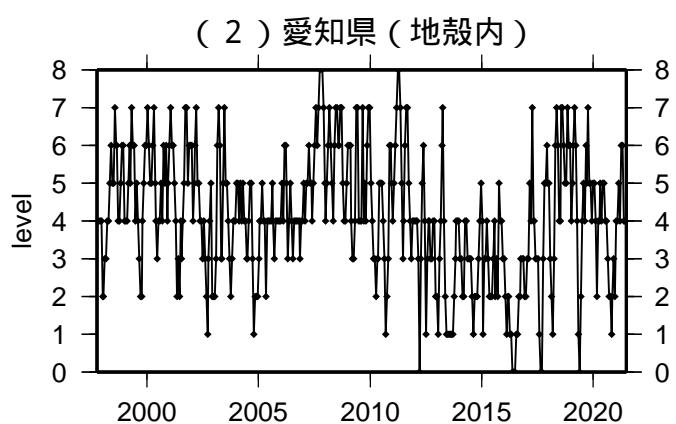
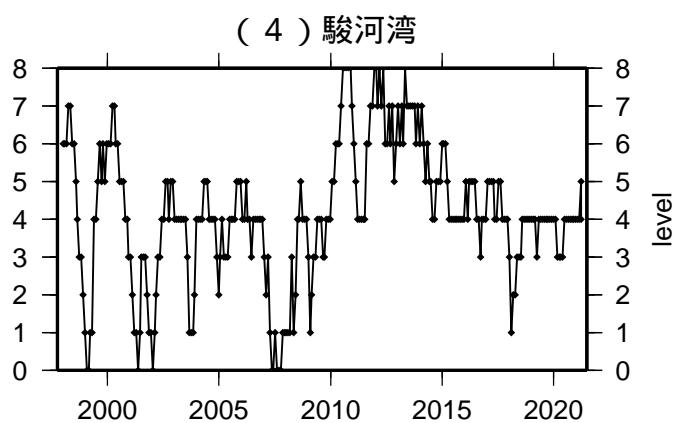
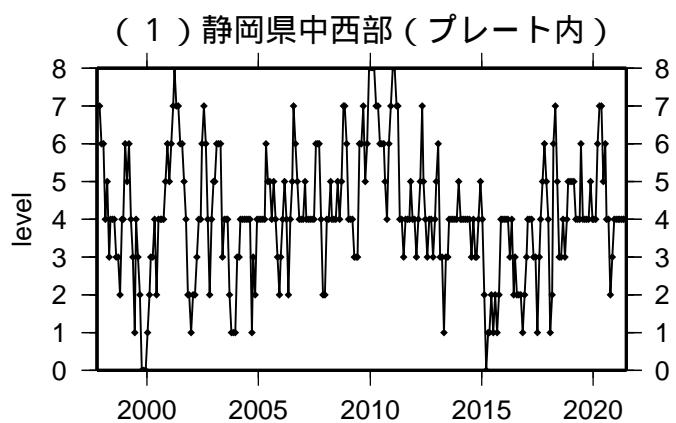
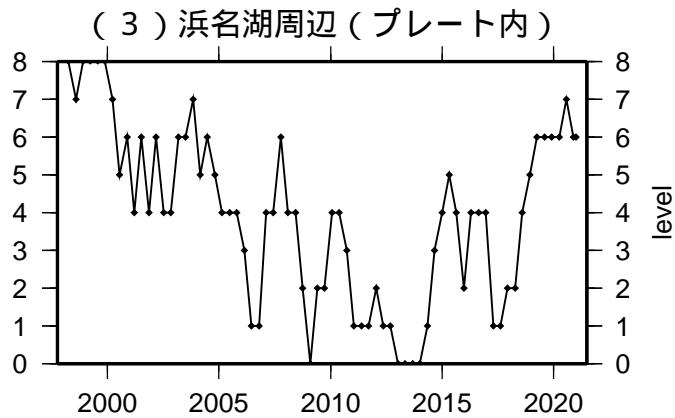
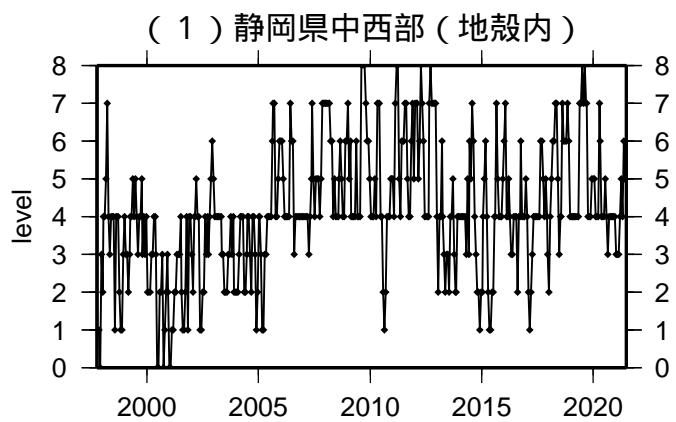
\* 黒色実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

\* Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

気象庁作成

# 地震活動指數一覧

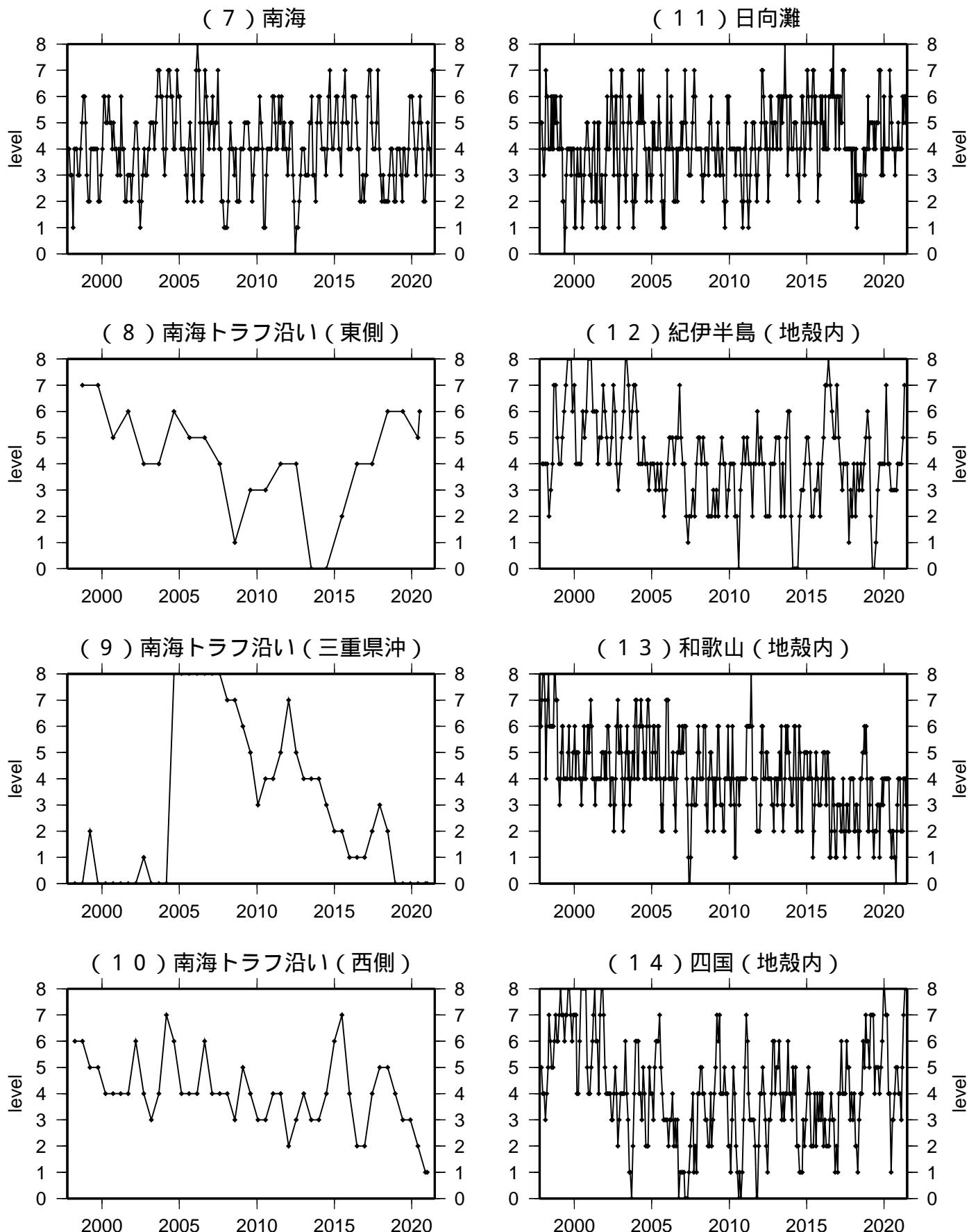
2021年06月30日



活動指數	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	平常	多						

# 地震活動指數一覧

2021年06月30日

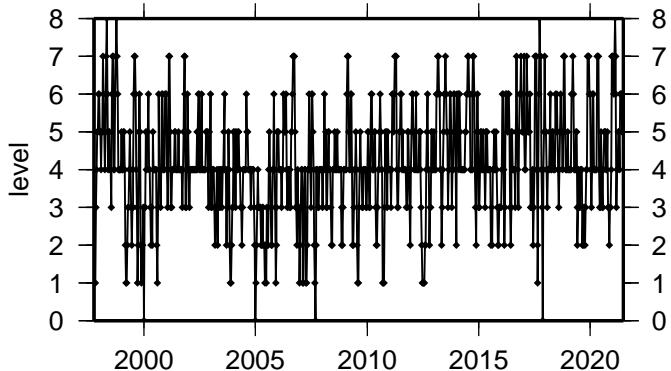


活動指數	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率(%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	←	平常	→	多				

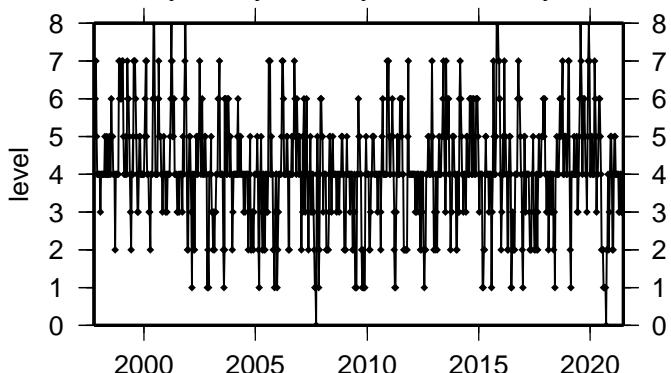
# 地震活動指數一覧

2021年06月30日

( 15 ) 紀伊半島 ( プレート内 )



( 16 ) 四国 ( プレート内 )



活動指數	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	←	平常	→	多				